

平成25年10月16日

## 『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、P.T.A代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

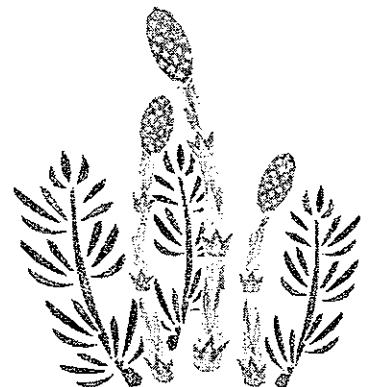
各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

### 学力向上に向けた5つの提言

- 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。**  
どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。
- 2 子供をほめること、認めること。**  
子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。**  
本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。**  
黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。**  
学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

## 提言1

どの子供にも積極的に声掛けをする  
とともに、子供の声に耳を傾けること



提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

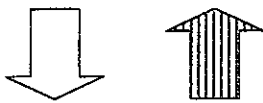
【学校名】 気仙沼市立白山小学校

【実践のねらい・概要】

- 校舎1階廊下を「ハートキャッチあいさつロード」として、学校の全職員と児童とのふれあう機会を設けている。児童と全職員がお互いにあいさつを交わす中で、全職員で積極的に児童を見守っていく体制を構築している。

【実践】

登 校 ・ 下 校



ハートキャッチ  
あいさつロード

1日の始まりと終わり（帰り）のあいさつの活性化を教育課程の中に位置付けて取り組んでいます。



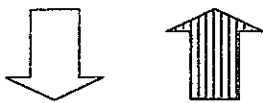
図1 あいさつロード

全校児童は校舎内へ入ると、1階「ハートキャッチあいさつロード」を通ります。（図1）



図2 職員室へあいさつ

職員室の先生方へ  
あ い さ つ



職員室へあいさつをします。朝は集団登校グループのあいさつ、帰りはそれぞれの帰る時間で職員室へあいさつをします。（図2）

児童の様子で気になった事は、即時に情報共有を行います。担任は1日の生活の様子や個別指導の中で情報収集をします。また、定例の打合せの中で指導・支援の方向を全職員で確認します。

教室の先生方や友達に  
あ い さ つ



1階と2階の教室の先生方や友達へあいさつをします。帰りのあいさつは各学級をまわってあいさつをして帰ります。

【成果と課題】

- 毎日繰り返される児童とのあいさつを通して、その変化を察し、担任と情報を共有することが、児童の心のケアに役立ち、積極的な生徒指導となっている。
- あいさつが形骸化しないよう、その意味を理解した行動となるように留意している。

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立松岩小学校

【実践のねらい・概要】

「校内の挨拶の活性化」を図り、学校ばかりではなく、家庭や地域でも実践できる児童の育成を図る。挨拶を通して児童一人一人の声に耳を傾け、児童の小さな変化に目を向ける体制づくりを行う。児童の主体的な挨拶を育む活動として、縦割り班による挨拶運動を週に2度ずつ設定し行っている。

【実践】

○ 4月4日 職員会議による本年度重点努力事項「挨拶の励行」の確認

・児童一人一人の学期毎生活目標として、意識付ける。

「こ」・・・こう通事故に気を付けよう。

「ど」・・・どこでもあいさつをしよう。

「も」・・・もっともっとがんばろう。

・縦割り班による挨拶運動の提案（児童会主催）

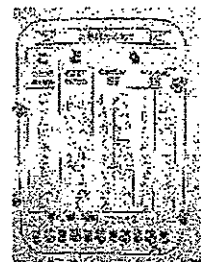
○ 4月～ 縦割り班による挨拶運動の開始

・日時： 毎週 月・金 7時50分～8時05分

・場所： 東および西昇降口前

・取組： 4年生以上の児童が、縦割り班毎に1週間ずつ分担。

昇降口に整列し、登校児童への挨拶活動を行う。



挨拶運動の様子

○ 昼の放送による取組紹介

<具体の取組について>

本年度の縦割り班が挨拶運動に取り組み、半年が経過した。縦割り班長である6年生は、挨拶の大切さを十分に実感し、班のメンバーと共に挨拶の輪を広げようとしている。

○ 縦割り班長の感想

挨拶運動を始めて、全校のみんなが挨拶に  
親しみを持ち、ふだんから積極的に挨拶を  
するようになった。挨拶は人々を笑顔に  
する存在だと思ふので、これからも、挨拶運動を続け  
みんなの笑顔を増やしたい。

昨年までは、きちんとあいさつを（な）かたり、ふざけな  
がらやっていた人もいたけど、今年はきちんと整  
列し、あいさつをすることができた。係があいさつ  
すると、元気にあいさつを返してくれる人が  
年より増えた。暗いお天気が笑顔になった。

【成果と課題】

○ 校内で、教師と児童がすれ違った際も、挨拶が交わされるようになった。その際の児童の声や表情などから、わずかな変化を捉え、担任に伝えたり、職員間での共通理解を図ったりして、児童をサポートする体制ができています。

○ 挨拶運動で児童同士が挨拶を行うことは、児童の集団への所属感をもたせることにつながるものである。児童同士の挨拶をより一層励行していく。

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立水梨小学校

【実践のねらい・概要】

児童理解を深化させるために、毎月学校生活アンケートをとったり、週に1度の打合せで学級の様子を話したりするなどして情報を共有し、指導に役立てている。小規模校の利点を生かし、全職員で全校児童の様子を把握し、個に応じた指導の充実を目指している。

【実践】

第1学年 国語 「おもいだしてかこう」

- ・児童が具体的に想起しやすいように、遠足での出来事についてかぎ（「 」）を使った作文を書かせる指導を行った。
- ・下見をして児童が興味をもちやすい場所を予想するとともに、実際活動した時にどんなことに興味をもって活動したのか、いつどんな会話をしたかなどを他の教員からも情報を得た。

（具体の取組について）

○準備

- ・児童が相手意識・目的意識をもって活動できるように、遠足には参加していない5・6年生に遠足の様子を詳しく伝える作文を書くことを単元の導入で確認した。

○作文を書く

- ・児童が意欲的に取り組めるように、写真や吹き出し型ワークシートなど視覚的に分かりやすい教材を活用して取り組ませた。
- ・遠足での児童との会話を役立て、書きたい場面の写真を複数用意し、一番書きたい場面を一つ選べるようにした。選んだ写真はどんな場面か、どんなことをしたか、その時の気持ちを簡単にワークシートに書かせた。さらにその時の様子について想起させ、会話文を使って詳しく書くことで様子がよく分かる作文を書くことができた。

○相互評価

- ・友達同士の良い所を見つけることができるようになってきているので、会話文を発表し合う活動では、友達の良い所を見つけ、称賛した感想を聞き合い、より良い作文を書きたいと思う意欲がもてるようにした。

【成果と課題】

児童の実態を踏まえて、写真を活用し視覚的に分かりやすくしたり、見通しをもたせるためにワークシートを作成したりすることは、意欲を高めて学習することにつながった。また、あらかじめ担任以外からも個々の活動を見て、興味のあることや実際の会話について情報交換できたことも個に応じた指導に役立った。その他の学年でも一人一人の様子をとらえて声掛けをし、さらに生き生きと活動する指導ができるよう研修を深めていきたい。

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立新城小学校

【実践のねらい・概要】

どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けることによって児童理解に努め、落ち着いた学級経営を図ることにより、楽しい学校づくりをする。

【実践】

- 生活に関するアンケートの実施（年3回）
- 児童対象の教育相談の実施（年2回）
- 生活に関するアンケートのまとめと分析
- 生徒指導情報交換の時間の設定
- 健全育成委員会の開催
- 民生委員との懇談会の開催
- 保護者対象教育相談の実施
- 「きんYOUタイム」の実施（毎週金曜日）

（具体の取組について）

- ・ 学力向上には、安定した学級経営、児童教師相互の人間関係づくりが不可欠である。まず、学期毎3回の生活アンケートを実施し、子供の理解や生徒指導上の課題の把握に努めた。その後、生活アンケート結果を基にして担任による全児童対象の教育相談を実施し、アンケートでの情報を具体的に把握するとともに、アンケートには書かれていない実態の把握にも努めた。また、解決が必要と思われることについては当該児童を指導し早期に解決してきた。
- ・ 保護者との教育相談を実施し、家庭での児童の様子との把握と学校での児童の活躍の様子や課題を伝え、児童の理解と家庭との連携を深めている。
- ・ 毎週木曜日の打合せの際に生徒指導情報交換を実施し、各学級の問題を全職員で共有し、児童理解に努めるとともに、担任のみならず全職員で解決している。特別支援学級児童の対応の仕方も担任から全職員に伝え、共通理解の基に対応している。通級学級児童との関係も良好である。
- ・ 本校では今年度金融教育の指定を受け研究に取り組んでいる。研究の一環として、物を大切にすることを目的に、毎週金曜日の帰りの会の時間に「きんYOUタイム」を設定している。校内放送を使って音楽を流しながら、ロッカーや机の中、フックなどの持ち物の整理整頓に取り組ませている。忘れ物やなくし物のないようにさせると同時に、落ち着いた学習環境づくりにも努めている。

【成果と課題】

いじめに発展しかねないような事例もあったが、担任や生徒指導主任を中心として、全職員が連携し問題の早期発見・早期対応に努め、解決してきた。現在、いじめととれる問題はなく、不登校児童もいない。今後もさらに児童の心の状態把握に努め、落ち着いた学校生活を送らせることで、学力の向上につなげていきたい。また、本校独自の活動である「きんYOUタイム」の方法や内容についてもさらに充実させ、落ち着いた学校生活を過ごせる環境づくり、物を大切にす心の醸成に努めていきたい。

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立月立小学校

【実践のねらい・概要】

- ・業前に行っている朝学習の時間に、学級担任の他に1～2名の職員が指導に入り、複数体制で指導を行う。
- ・本校では学習に関する習熟度や個別の課題に個人差が大きいという課題があり、それぞれの実態に合った課題に取り組ませるとともに、児童の「分からない」という声に耳を傾け、個別に声掛けや指導を行っていく機会を増やすことをねらいとしている。
- ・全職員で児童の実態把握や指導を行う体制づくりをするというねらいもある。

【実践】

○朝学習の時間と内容

- ・毎週火曜と木曜の業前の時間（8時15分～8時30分）に朝学習を行っている。
- ・火曜と木曜の一方は計算ドリル（全校で統一して同じドリルを購入）を使用しての算数の内容、もう一方は教科書やプリントを使用しての国語の内容の指導を行っている。

○指導体制

- ・複式学級の1・2年生と5・6年生に、また、学習に関する習熟度に個人差が大きい4年生に学級担任以外の職員を以下のように配置し、指導を行っている。

学年 (児童数)	1・2年 (1年 7名, 2年 1名)	3年 (6名)	4年 (8名)	5・6年 (5年 3名, 6年 6名)
職員の配置	学級担任, 学習支援員 ※別室での個別指導 …教頭	学級担任	学級担任, 学習支援員	学級担任, 校長

- ・基本的に学級担任が個別に支援が必要な児童への指導、それ以外の職員がドリル等の丸付け等を行うように役割分担をしている。

【成果と課題】

- 1学期の学校評価での話合いであがった反省をもとに2学期から始めた取組であるが、個別に支援が必要な児童への指導の時間を確保することができ、一人一人への声掛けの回数も増えた。
- 丸付け等で児童を待たせることも減り、朝学習の時間をこれまで以上に有効に活用できるようになった。
- 学級担任以外の全職員での指導体制により、朝学習の時間以外にもどの子供に対しても毎日のように声掛けができ、全校児童との人間関係づくりにつながっている。
- 出張等で不在等の場合が多く、複数体制での指導ができないことがある。
- 今後、支援の必要な児童には、個に応じた指導内容も検討していく。

提言 Ⅰ どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 南三陸町立入谷小学校

【実践のねらい・概要】

毎月実施する「学校生活アンケート」を活用し、子供の学校生活における変化をとらえるとともに、定例の職員会議の場で情報交換を行い、教職員間で情報を共有する。この取り組みをとおして、全校体制で児童理解に努め、更には学習指導の充実を図る。

【実践】

Ⅰ 学校生活アンケートをもとにした児童理解と情報の共有  
[職員会議での情報交換より]

○いじめられているかを答えられない、見たことがある。

→具体的に聞き取りを行う。

○先生に相談したいこと（遠足のこと、両親のけんか）

→どんなことでも担任が話を聞くという姿勢を。

○学校が楽しいかという設問に「普通」という回答が増加。

→先月から継続傾向、担任は把握。様子を見守る。

→本人がいやがる行為「何気ない言葉で笑いものにする」ことについて学級で指導。

→アンケート後の聞き取りで友達が原因という話。担任から見て疑問の部分もあるので、本人の行動を継続観察するように。

※「報・連・相」で素早い対応、みんなの目と共通理解を大切に。

※連絡帳は朝にチェック！（家庭からのSOSも見逃さない。）

※子供を思う気持ちと理解、誠意ある対応を！

※教師も子供も「はきはき」したあいさつ、「にこにこ」した笑顔、「てきぱき」した行動を。

Ⅱ 定期的に校内研修等で「5つの提言」について理解を深める。

これまでの取組として

○研修日や職員会議の場で「5つの提言」の内容を確認する。

○提言に関する学級での取組を教務主任が集約し、全校で共有する。

○授業研究とともに接遇や一般常識に関する研修、ICT機器研修、地域研修、各種研修会の伝講等、校内研修の充実を図る。

学校生活アンケート 年 月 日 ( )  
章 ( 第・次 )

このアンケートは、みなさんが、毎日楽しく安心して学校生活を過ごせるように行います。当てはまるところに○をつけてください。

1 学校が楽しいですか。  
(1) 楽しい (2) ぶつ (3) 楽しくない

2 先生に相談したいことがありますか。  
(1) ある (2) ない

3 だれかにいじめられていますか。  
(1) いる (2) いない (3) 知られない

4 このころ、だれかにいじめられているのを発見ことがありますか。  
(1) ある (2) ない

5 いじめではないかもしれないけれど、いじめのようなことを見ることがありますか。  
(1) ある (2) ない

【成果と課題】

毎月、学校生活アンケートを実施し情報を共有してきたことで、全職員が同じ歩調で児童理解に努めることができた。このため、どの学年もアンケートから気になる児童に対して早期対応している。今後は更なる学習指導の充実を図っていきたい。



提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

提言 2 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立面瀬中学校

【実践のねらい・概要】

- ・「学校生活アンケート」「Q-U調査」を実施し、Q-Uの分析方法の校内研修を行い、学年で分析した。その結果を受け、校内研修の中で効果的な声掛けの方法などを検討し、共有化を図った。
- ・校内研修で、「自分の考えをしっかりとノートに書くこと」を学習過程に位置づけることで、生徒の学習意欲を高める授業が展開できるであろうと考え、実践している。

【実践】

- 4月 2日 第 1回 校内研修～言語活動を取り入れた指導過程の工夫をとおして～
- 4月 22日 第 1回 Q-U調査・全国学力・学習状況検査
- 5月 16日 第 1回 学校生活アンケートの実施
- 5月 19日 Q-U調査研修
- 6月 9日 第 3回 校内研修 Q-U調査結果によるワークショップ 情報の共有
- 6月 24日 第 2回 学校生活アンケートの実施
- 9月 3日 第 3回 学校生活アンケートの実施
- 10月 10日 第 7回 校内研修 授業研究
- 11月 4日 第 4回 学校生活アンケートの実施
- 11月 27日 第 8回 校内研修 授業研究
- 1月 13日 第 5回 学校生活アンケートの実施
- 1月 20日 第 2回 Q-U調査の実施
- 1月 27日 第 9回 校内研修 ・Q-U調査の分析・共有 ・研究のまとめ
- 2月 27日 第 10回 校内研修 ・学力向上プランの反省・改善・評価  
・標準学力調査の実施と結果分析
- 3月 10日 第 6回 学校生活アンケート

〈具体の取組について〉

- Q-U調査、学校生活アンケートを実施し、学年で話し合いをもつだけでなく、全職員でワークショップ(K13法)を行い、共有化を図り、生徒に声掛けや生徒の声に耳を傾けている。
- 立ち止まってしっかりとあいさつすることを奨励しており、生徒から丁寧なあいさつをされて気持ちが良い等、地域の方々から意見が寄せられている。
- 職員室前に、座ってゆっくり資料を読める進路コーナーを設けており、休み時間に生徒とのレポート作りの場ともなっている。
- 本校の生徒の実態から、「提言4 自分の考えをノートにしっかりと書かせること。」の「1 授業計画をしっかりと立てて考えを書く時間を確保する」、「4 書くことのスキルアップを目指し、以下のような手だてを講じた。
  - ・授業の中に、自分の考えや意見を文章にまとめる時間を確保する。
  - ・授業の中に、板書を写すだけでなく、口頭で述べた内容をノートに書き取る練習を入れる。
  - ・短学活中や委員会活動の中でも、メモをとる習慣を付けさせる。
  - ・家庭学習ノートの中に1行日記を書かせ、自分の考えを「書くこと」のスキルアップを図るとともに、一人一人の生徒への声掛けにも活用している。それに加え、朝の会での「ニュース発表」や帰りの会での「スピーチ」活動でも、原稿をしっかりと作り発表している。

【成果と課題】

これまでの実践から、「書くこと・話すこと」のスキルアップだけでなく、互いの認め合いや賞賛につながり、自己肯定感の高まることで、学習意欲の向上につながりつつある。しかし、まだ家庭学習の習慣化など、個人差が大きいいため、基礎学力の向上も必要となっている。

提言1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。  
提言2 子供をほめること、認めること。

【学校名】 気仙沼市立条南中学校

【実践のねらい・概要】

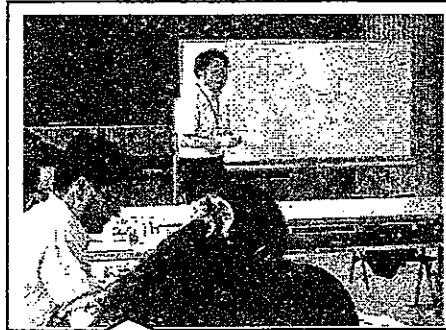
「学習・生活アンケート」や「Q-U (楽しい学校生活を送るためのアンケート)」と「NRT (全国学力標準検査)」とのクロス集計を実施し、学力の相関から見える学級の実態や、生徒個々の傾向と変容を把握する。要支援生徒や上位群を伸ばす対策を講じ、学習指導や学級指導の実践に生かし、生徒の望ましい人間関係の構築や自己肯定感の高揚に努める。

【実践】

- 4月11日 「NRT」の実施
- 4月30日 第1回「Q-U」の実施
- 5月14日 第1回「学習・生活アンケート」実施
- 6月 9日 校内研修会 (Q-U研修会①)  
→事例報告シートの作成 (条南バージョン)
- 7月11日 第2回「学習・生活アンケート」
- 9月 9日 校内研修会 (Q-U研修会②)
- 11月20日 第2回「Q-U」の実施
- 1月26日 第3回「学習・生活アンケート」実施

〈 具体の取組 〉

Q-U研修会①では、佐藤謙二先生 (大船渡中学校副校長) を講師に迎え、Q-Uの基本、NRTとのクロス集計結果による学力の相関から見える学級の実態、配慮事項などを共通理解した。学級ごとに事例報告シートを作成し、情報の共有に努めた。学習指導では、役割分担に配慮したり、スキル指導を行うなど、クロス集計結果を意識した取組を行った。また、養護教諭、カウンセラーとも連携し、非承認群、要支援群生徒に対するカウンセリングの計画的な実施に役立てた。学級指導においては、朝の会、帰りの会の持ち方を工夫したり (班活動、スピーチなど) 生徒を認めたり、活躍できる場面を設定し、結果ではなく、頑張りを賞賛するよう努めた。掲示物や学級通信で頑張りを伝えた。



6月 研修会①の様子。



9月 研修会②では、学年毎にQ-Uプロット図、NRTクロス集計表を再分析した。

【成果と課題】

学級や生徒の実態と傾向を確認できたこと、これまでの取組の中から有効だった取組や手立てを確認し、情報共有できたことは、学級経営、教科経営を行う上でも、有意義であった。今後、指導の成果、生徒の変容をどのように見取っていくかが課題の一つである。指導の結果を累積し、良い取組は継続しつつ、課題が生じた場合には、生徒の実態に応じ教員間で相談しながら、安心できる雰囲気のある学級、人間関係の構築を目指して手立てを講じていきたい。

提言 1 どの子どもにも積極的に声掛けするとともに、子どもの声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立小泉中学校

【実践のねらい・概要】

「学習実態調査」を活用して、生徒個々の現状を把握し、学年や学校全体で対応の仕方について検討し具体的に移すとともに、校内研修会においてカウンセリングに関する研修を行い、教員のカウンセリング技能の向上を高めることで、生徒が自分の考えを表現できる環境づくりを行う。

【実践】

- 5月13日 校内研修会 生徒への声掛けの仕方について確認→全員で共通理解
- 5月23日 「学習実態調査」→実態の把握
- 6月9日 校内研修会 「学習実態調査」分析の報告→共通理解
- 7月16日 校内研修会 学習指導ケース会議→個別生徒への対応について共通理解
- 8月6日 「生徒指導・教育相談研修会」→カウンセリング技能向上
- 9月 全国学力学習状況調査結果分析→一人一人の生徒への接し方を確認

<具体の取組について>

- ・ 学習実態調査より「自信をもって、発表したり、話し合ったりすることができる」の質問で50%、「わからないことは質問している」の質問で72.5%と、半数以上の生徒が肯定的な回答でしっかりコミュニケーションをとりながら学習していることが分かった。しかし、約1/4の生徒はできていない現状も把握できた。それに対して、さらに授業において自信をもって自分の考えを表現できる指導を進めることを全員で確認した。
- ・ 全国学力学習状況調査結果分析より、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問で93.3%の生徒が肯定的な回答で、教師からの働きかけが効果として現れていることが確認できた。
- ・ 「生徒指導・教育相談研修会」で、アセスメントの重要性、「同じでなければいけない」考え方からの脱却、保護者との対応など多岐に渡るカウンセリング技能や考え方を学んだ。
- ・ 自分の考えや意見を友人や先生にしっかり伝えられず、苦手なことを避けようとする生徒Hに対しては、まず学習の進め方を指導して学習課題を出し、できなければそのことを教師に素直に伝えることの大切さを指導するなど、学習課題に対する苦手意識をなくすよう工夫した。また、担任等による教育相談と連動させたスクールカウンセラーの定期的な相談活動により、2学期には課題等を提出できない理由もはっきり伝えられるようになり、学校生活に意欲的な面が見られるようになった。

【成果と課題】

これまで、生徒が自分の意見を言える環境づくり、教師からの声掛けの仕方の技能向上・意識づけにより授業等でも実践することができた。その成果は授業においても積極的な挙手などの場面に見て取れる。11月のアンケートにより数値として確認し、次の段階での対策を考えたい。

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

【学校名】 気仙沼市立大谷中学校

【実践のねらい・概要】

Q-Uや大谷中版EQを活用して学級と生徒個々の現状を把握し、よりよい学級づくりのため、全職員が同じ方向性をもって生徒と関われるようにする。そのことによって、学級や生徒個々の学校生活における課題を把握するとともに、その解決が出来るものとする。

【○実施・□予定】

- 4月9日 調査：第1回Q-U・大谷中版EQの実施（1～3年生）
- 5月19日 校内研究会：Q-Uを活用した生徒の実態把握＜2・3年生について＞  
（K-13法を用いて各学級について分析し、そこから見えてきたよりよい学級集団にするための到達目標を掲げ、それを達成させるため具体的な手立てを話し合い、その手立てを使いながら全職員で関わる。）
- 6月5日 校内研究会：Q-Uを活用した生徒の実態把握＜1年生について＞
- 7月17日 調査：第2回Q-U・大谷中版EQの実施（1年生）
- 9月19日 校内研究会：Q-Uを活用した生徒の実態把握と変容＜1年生について＞  
（4月と7月のQ-Uの変容を分析し、よりよい学級集団にするための到達目標と達成させるまでの具体的な手立てを話し合い、出された手立てを全職員で実践していくことを確認する。）
- 11月5日 調査：第2・3回Q-U・大谷中版EQの実施（1～3年生）
- 12月11日 校内研究会：第1回との比較をとおして、学級の到達目標と具体的な手立てを共有する。
- 1月14日 校内研究会：第1回との比較をとおして、学級の到達目標と具体的な手立てを共有する。

〈具体の取組について〉

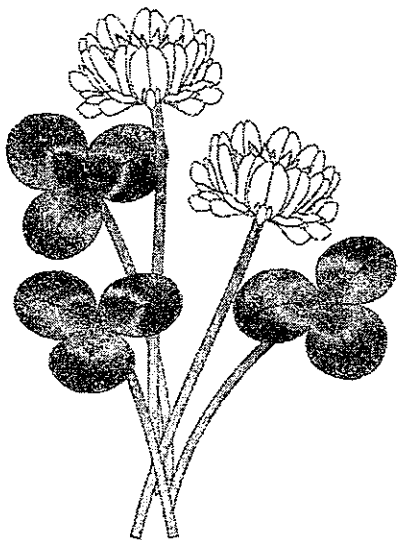
4月に第1回Q-Uを実施し、校内研究会を2回に分けて、1～3年の各学級の実態把握とそこから見える課題、これからの具体的な手立てについて、K-13法を活用して教職員全員で話し合う。学年担当、教科担当以外の先生方も関われるように、具体的な手立てを共有し、生徒たち一人一人に接していく。そうすることで、生徒の自己有用感や自己存在感を育み、生徒にとって居心地の良い学級や学校を作っていくことにつながる。第2回Q-Uや大谷中版EQを11月に実施し、第1回との変容を分析することによって、今後のさらなる指導に生かしていく。

【成果と課題】

成果はこれまでの校内研究会をとおして、教職員全員で各学級の到達目標と具体的な手立てを共有することができた。課題は学級集団や生徒個々へ行っている具体的な手立てが、学級集団や生徒にとって効果的な働きかけだったかどうか今後検証が必要である。

## 提言2

子供をほめること，認めること



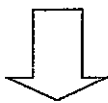
【学校名】 気仙沼市立白山小学校

【実践のねらい・概要】

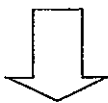
- 活動前に一人ひとりのめあてを設定させ、教室や廊下に掲示し関心・意欲をもたせている。活動後には成果の振り返りと集団での発表の場を設け、認め合う活動を通して自己肯定感や有用感を高めている。

【実践】

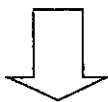
めあての設定



様々な活動



成果の振り返り



集団での発表

様々な活動の前にはめあてを設定しています。累積されている情報を事前に伝え、めあて作りに役立てさせています。(図1)

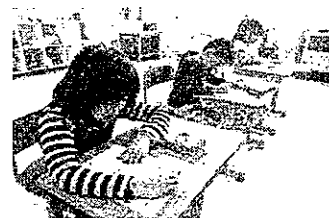


図1 めあての設定

学校行事や学年ごとの活動等、自分のめあてに向けて活動を行っています。(図2)



図2 活動

めあての振り返りを行います。自分のめあてと活動を比べての感想や次へのめあてを書きます。(図3)

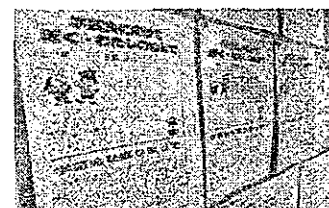


図3 振り返り

全校で活動の振り返りを行います。それぞれの思いや願いを共有し、認め合うことで自己肯定感を高められるようにしています。(図4)

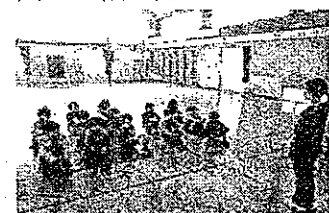


図4 発表

【成果と課題】

- 自己のめあてを設定することで、見通しをもった具体的な活動となり児童の励みとなっている。また、指導者も児童の思いに沿う手立てを明確にもつことができている。
- 児童が自己の成長を感じるために、活動過程と結果という二つの観点のバランスに留意している。

【学校名】 気仙沼市立中井小学校

【実践のねらい・概要】

校内研究で行っている児童の意識調査や授業中の児童の実態を見ると、自ら進んで発言することができない児童が多いということが本校の児童の課題と言える。意識調査では、その理由として、「自信がない」ということを第一に挙げている。そこで、全校、または、各学級で、「発表や発言する場」や「互いの頑張りを認め合う機会」「教師が子供の頑張りを称賛する機会」を増やすことにより、自己肯定感や自尊感情が高まり、発言することへの積極性が育まれると考える。

【実践】

○全校（朝会）での取組

本校の朝会には、児童の発表の場として、「発表朝会」（各学年・年2回）と「歌声朝会」（各学年・年1回）がある。「発表朝会」では、国語で学習した物語や詩、更に発展させた内容の教材を朗読したり、群読したりしている。BGMを組み合わせたり、動きを付けたりするなど、学年毎に工夫が見られる。「歌声朝会」では、全校で今月の歌を歌う他に、音楽で学習した合唱や合奏を披露している。更に発表後には、各学年数名ずつ感想を述べる時間を設定している。良かった点や頑張っていた点、工夫している点などを児童同士で伝え合うことで、発表した児童は達成感を味わうことができ、互いの頑張りを認め合う意識を高めることができる。

○各学級での取組

各学級では、主体性を育んだり、自己肯定感や自尊感情を高めたりするため、発達段階や児童の実態に応じて、次のような取組をしている。

<教科指導>

- ・児童のノート等への朱書きと意図的指名（自分の考えに対する自信、考えの深まり）

<朝の会>

- ・全員で交わるようなゲーム（交友の深まり、一日の楽しいスタート）

<帰りの会>

- ・楽しかったことや頑張ったことの発表（話す場の設定、友達の良さへの気付き）
- ・善行児童の紹介（互いの良さの認め合い、他の児童への善行の広がり）

<その他>

- ・係活動のイベント（主体性・創造性の育成、学級・仲間づくり）
- ・各種行事における学級のめあての設定（学級集団・仲間意識の醸成）
- ・学級便りでの児童の頑張りの紹介（他の児童への啓発、家の人からの称賛）
- ・自主学习ノートの紹介（自尊感情の高まり、他の児童への啓発）

【成果と課題】

年度始めの校内研修において、『学力向上に向けた5つの提言』について全職員で共通理解を図り、全校、または、各学級でできることから実践してきた。朝会などで感想を求められた際に挙手する児童が以前より増えてきたことから、発表などに対して徐々に自信ができてきたと思われる。さらに効果を上げるためには、現在、『5つの提言』ヒント集』をもとに各学級で実践していることを系統立て、実践、評価、改善していくPDCAサイクルを確立していく必要がある。

【学校名】 気仙沼市立小原木小学校

【実践のねらい・概要】

授業の中で、指導者が児童のよい考えを認め、称賛する。また、学び合う活動を設定し、児童同士が認め合い、称賛する場を設定していくことで、自己有用感や授業への参加意欲を高めさせ、積極的に考えようとする態度を養う。実践は校内研修の授業研究を中心に取り組む。

【実践】

① 5年算数「小数のわり算」

前 5月28日 実 6月5日

② 4年算数「垂直・平行と四角形」

前 6月10日 実 6月19日

③ 3年算数「あまりのあるわり算」

前 6月26日 実 6月30日

④ 1年算数「たしざん」

前 9月16日 実 10月1日

⑤ 4年算数「計算のきまり」

前 10月29日 実 11月5日

⑥ 6年算数「資料の調べ方」

前 11月28日 実 12月10日



前…事前検討会  
実…授業実践  
後…事後検討会

〈具体の取組について〉

校内研究における授業づくりの視点の1つに「授業を共有化（シェア）する」を設定している。これは、授業の中での指導者が中心となって行う児童の考えの整理、まとめ、評価の場面、さらに、児童同士で行う考えの伝え合い、評価など練り合いの場面で行っている。

このことで、児童一人一人が問いや課題に対する考えを表現し、認められる場を保障することができる。考えを表現することは、自分のよい点、誤りに気付くことになり、自分の考えを表現することで、筋道を立てて考えを進めたり、よりよい考えを作ったりできるようになる。また、身近な友達の考えを聞くことは、思考することへの意欲を高め、友達のよさを知ることにつながる。その中で、指導者が児童一人一人を的確に見取り、授業の中で児童を生かし活躍させることで、学習意欲を高め、自信をもたせることにもなる。この実践を継続的に取り組むことで、学力向上につながるものと考えている。

【成果と課題】

自力で考えを表現する力が身に付いてきているが、児童同士で考えがより深められるように話し合わせる工夫が必要である。座席の工夫など、より効果的な取組を考えていきたい。



提言 2 子供をほめること、認めること

【学校名】 南三陸町立志津川小学校

【実践のねらい・概要】

児童が進んであいさつをするために、学校全体で児童会中心に「あいさつ運動」を積極的に行う。計画委員会が中心になって、あいさつが上手な児童を昼の校内放送で紹介したり、各委員会児童が毎朝昇降口で交代制であいさつの声掛けをしたりすることで、児童同士が認め合い自尊感情や自己有用感をもつことができると考える。

【実践】

- 5月 8日 くろしお議会で計画委員会によるあいさつ運動「ひみつの先生」を継続することを決める。
- 5月13日 第1回 児童の志教育の意識調査の実施
- 5月20日 第1回 保護者の志教育の意識調査の実施
- 5月27日 あいさつ運動「ひみつの先生」を実施
- 6月 9日 第1回 児童・保護者の志教育の意識調査の結果分析
- 6月29日 各委員会による朝の「あいさつ運動」を実施
- 12月1日 第2回 児童・保護者の志教育の意識調査の実施
- 12月下旬 第2回 児童・保護者の志教育の意識調査の結果分析（予定）
- 3月 くろしお児童会で「あいさつ運動の取組をふり返ろう」について話し合う。  
(予定)

<具体の取組について>

本校の児童は、あいさつはできるようになってきたが、進んで気持ちのよいあいさつをするまでには至っていない。第1回の児童の志教育意識調査の結果によると、人間関係構築力・社会性の項目で5段階評価で3.29という数値であった。そこで、児童会で進んで児童があいさつをするためにどうしたらよいかを話し合い、「ひみつの先生」（計画委員会を選んだ先生がその日あいさつが上手だった児童を選び昼の校内放送で紹介する。）を実施することになった。「ひみつの先生」を実施したことで、全職員が児童一人一人に声を掛け、児童も進んであいさつをするようになってきた。また、高学年の児童の多くが立ち止まってあいさつをするようになり、低学年の手本となる姿が見られるようになってきている。

【成果と課題】

これまでの実践で、全職員が児童に目を向け、よいところを見付けることができた。さらに、児童の一人一人のよさに気付くことで、児童同士が認め合い、自尊感情や自己有用感を高められるように取り組んでいく必要がある。

提言 2 子供をほめること、認めること

【学校名】 気仙沼市立津谷中学校

【実践のねらい・概要】

他と関わる場面を意図的に増やし、互いに認め合う活動を適宜取り入れることによって、自己肯定感・自尊感情を高めていく。このことを継続していくことによって自他を尊重できる環境が構成され、安心・安全な居場所・仲間づくりにつながり、ひいては、意欲的に学び合える土壌づくりになると考える。

【実践】

	生徒	教師
学期初	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境適応尺度「アセス」の実施</li> <li>・自分自身について自己診断させる (自己をどのようにとらえどうなりたいか目標を決める)</li> </ul>	生徒の実態把握 ↓ 情報共有 ↓ 手立ての確認 ↓ 実践 ↓ 評価・改善 上記を繰り返す
日々の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除の反省会に「頑張ったところ」を発表する場を設ける</li> <li>・帰りの会のプログラムに「周りのためによりよい行いをした人」の発表を取り入れる</li> <li>・学年体制で係活動（「計画→活動→振り返り」の繰り返し）を行う</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後にコンプリメントシャワー（お互いの頑張りを認め合う）を行う</li> <li>・通信でコンプリメントシャワーを行った時の様子を家庭に知らせる</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・席替え（自己診断をもとに座席を決定）を工夫する</li> </ul>	
学期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身について自己診断させる (決めた目標の達成状況について振り返る)</li> </ul>	

<具体の取組について>

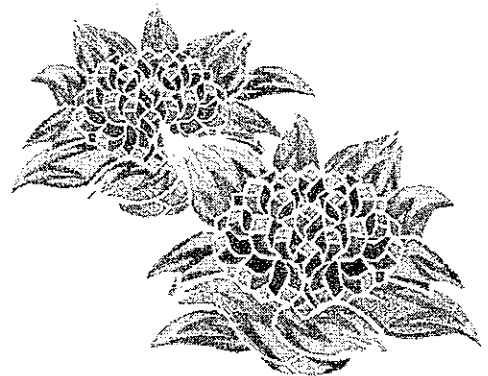
掃除の反省や帰りの会のプログラムの中に、他の頑張りがよさを認め合う場面を設け、他者のよさに目が向くようにし、見つけたよさを素直に認められるようにした。また、本来係活動は、円滑な学級の生活のためであるが、学年体制で対応することで、より多くの人と関わりながら互いのよさを認め合う場を多く設けることができた。また、同時に複数の教員の目で生徒の様子を観察できるようにした。次に、生徒が自身について記入した内容や教員側の観察をもとに、情報の共有や手立ての確認等を行った。行事後に、「コンプリメントシャワー」を取り入れ、しっかりと互いを認め合う時間を設けた。

【成果と課題】

行事後の「コンプリメントシャワー」は温かい雰囲気の中で行われ、生徒は照れながらも教室が笑顔でいっぱいになった。生徒の感想も「褒めてもらってうれしかった」「頑張ってたよかった」という内容が多く、自己肯定感・自尊感情が高められつつあるのではないかと感じている。しかしながら、日々の帰りの会での振り返りでは、他者のよさに目は向くようになってきたもののマンネリ化してきている。大切にすべきところは、生徒個々が主体的に学級集団によりよい関わりをもつことであり、その循環において、認め合う、励まし合うことが一人一人の情意面に有用に作用するようにさらに手立てを講じていきたい。

### 提言 3

授業のねらいを明確にするとともに、  
授業の終末に適用問題や小テスト、  
授業感想を書く時間を位置付けること



提言3：授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【学校名】 気仙沼市立気仙沼小学校

【実践のねらい・概要】

授業づくりを工夫し、どの学級でも「ねらい」と「まとめ」を位置づけた授業実践が行われるようにする。

【実践】

本校の校内研究では「気仙沼小学校学習指導過程基本型」を作成し、それに沿った授業を国語、算数、理科、社会で実践し、教師の指導力と児童の思考力・学力の向上を目指すという取組を行っている。

「気仙沼小学校学習指導過程基本型」では、

1. 教材の提示→2. 学習課題の提示
- 3. 学習の見通し→4. 活動
- 5. 学習のまとめ→6. 学習の振り返り

という指導過程を基本としており、「課題の提示」と「学習のまとめ」「学習の振り返り」を重視している。

研究授業は前期と後期の2回行い、全学級担任で実施する。現在前期が終了し、全学級が1回目を終了したところである。

研究教科は決まっているものの、他教科においても基本型を意識して授業を行うことが多くなり「気仙沼小学校学習指導過程基本型」が定着してきている。また、学習の基本の型があることで児童も学習の流れを意識して授業に参加できるようになった。

前期の反省をもとに後期の研究授業を行い、よりよい授業づくりを進めているところである。

気仙沼小学校 学習指導過程基本型  
～ いつでも どこでも だれでも 分かる授業を目指して ～  
※ 国語、社会、算数、理科の3科目です。

導入	1. 学習「課題」の提示 2. 学習課題（得意）の提示 ○「一だらうか」 3. 学習の見通し	<p>学習のねらいを明確に提示し、児童の理解を促す。</p> <p>本朝でも指導する児童の場を具体的に提示する。児童も積極的に参加する。</p> <p>児童の理解を促すために、児童自身から分かるようにさせる。</p>
展開	4. 活動 (1) 発問・発表 (2) 展開・ノート採録（書く活動） (3) 子ども同士の交流・学び合い	<p>児童の思考力・思考力向上を促す。児童自身から分かるようにさせる。</p> <p>児童の思考力・思考力向上を促す。児童自身から分かるようにさせる。</p> <p>児童の思考力・思考力向上を促す。児童自身から分かるようにさせる。</p>
まとめ	5. 学習のまとめ 6. 学習の振り返り (学習感想)	<p>学習の振り返りを行う。児童自身から分かるようにさせる。</p> <p>学習の振り返りを行う。児童自身から分かるようにさせる。</p> <p>学習の振り返りを行う。児童自身から分かるようにさせる。</p>

【成果と課題】

「学習課題」と「まとめ」を教師と児童の双方が意識して授業を行うようになったことにより、「何を学習したのか」を児童がきちんと理解することができるようになってきている。今後「学習の振り返り」をどのように進めていくことが効果的なのか研究を深めて行く必要がある。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

【学校名】 気仙沼市立九条小学校

【実践のねらい・概要】

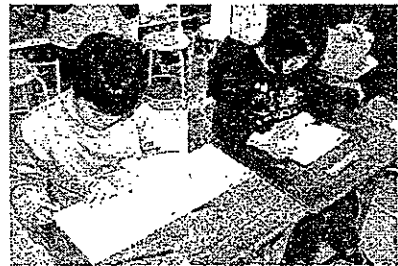
授業の終末に適用問題を位置付けた学習展開に継続して取り組むことで、基礎・基本の定着を図るとともに、活用能力の育成につながる取組の効果を授業実践を通して明らかにする。

【実践】

- 4月 4日 昨年度までの研究の概要説明，研究主題・副題の提案
- 5月21日 第1回学力向上サポートプログラム授業（4年1組），事後検討会
- 6月18日 5年2組研究授業
- 6月25日 5年2組研究授業事後検討会
- 9月 3日 2年2組研究授業・事後検討会
- 9月24日 全国学力学習状況調査の結果の分析
- 10月 1日 4年2組初任研授業事前検討会
- 10月 2日 4年2組初任研授業事後検討会
- 10月24日 第2回学力向上サポートプログラム授業（3年2組），事後検討会
- 11月 5日 1年1組研究授業事後検討会
- 11月12日 宮城県学力学習状況調査の分析
- 1月15日 4年2組初任研授業事後検討会（予定）
- 1月21日 第3回学力向上サポートプログラム授業（6年2組），事後検討会（予定）



適用問題を黒板で発表する児童



終末のスキル問題に取り組む児童

〈具体の取組について〉

授業改善の柱の一つとして、昨年度まで行ってきた授業の終末の適用問題への取組を継続してきた。終末に市販のスキル帳の問題に取り組ませるための時間を5分間確保するために、学習内容を40分で指導するように学習展開を工夫したり、板書を構造化したりして授業の改善を図ってきた。単元の系統を考慮した、考え方や解き方の基になる「基本型」を意識して指導し、終末の適用問題やスキル問題に取り組ませることで、児童の学習の定着の度合いを見ることができた。そこから教師は本時の授業の反省をし、次時の授業改善に生かしてきた。

【成果と課題】

授業の終末に適用問題を位置付けることによって、学習内容の振り返りに生かさせることができ、基礎・基本の定着がより確実に図られるようになった。児童は学習内容をどれくらい理解したかを自分で確認するとともに、学習の満足感を味わうことができた。スキル帳の問題に取り組むことを児童は楽しみにしており、算数学習への意欲の向上が見られた。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【学校名】 気仙沼市立唐桑小学校

【実践のねらい・概要】

教師が毎時の授業のねらいを明確にし、児童にも学習のねらいを意識させることで見通しをもたせる。また、授業の終末に適用問題や感想を書く時間を位置付けることにより、授業の理解度を確認したり、定着を図ったりする。

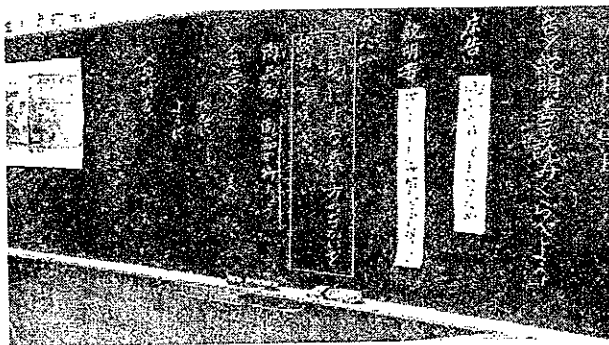
【実践】

1時間1時間の授業を大切にするためにも、まず、めあてを明確にして授業に臨むようにしている。板書して示したり、ノートやワークシートに記入させたり、「今日の授業のめあては〇〇だよ。」と告げたり等方法は様々であるが、教師も児童も本時のめあてをしっかり押さえてから学習に取り組んでいる。

本校は1クラスの人数が12人から22人と少数である。一人一人の児童の実態を比較的把握しやすいというメリットを生かし、児童のつぶやきに耳を傾け、学級全体に広げたり、学習のねらいに気付かせたりしている。

また、授業の終わりには、適用問題や感想を書く時間を確保している。例えば算数科であれば適用問題に取り組むことで、教師においては評価につながり、児童にとっては、その時間の理解について振り返ったり、自己評価したりすることにつながる。一方、その他の教科、特活などにおいては、感想を書くことにより、自分の考えをまとめ、授業の振り返りとしている。

「今日の授業ではこんなことが分かった」「今日勉強した問題が当たった」などといった達成感を味わわせることが、「自己実現」にもつながっていくと考える。



〈学習課題を明確に〉



〈授業の感想をまとめる〉

【成果と課題】

授業の終末に適用問題や感想を書く時間を位置付けたことで、学習内容の振り返りができ、児童は自分が学習したことがどれだけ理解できたか確認することができた。また、日を追うごとに感想も短時間での確かな内容が書けるようになってきた。こうした満足感が、「もっとやってみたい」「今度はどんな勉強かな」といった学習意欲につながってきている。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、  
授業の感想を書く時間を位置付けること

【学校名】 気仙沼市立大谷小学校

【実践のねらい・概要】

国語科の校内研究の実践をとおして、学習課題を明確にし、児童が進んで思いや考えを表現できる「場の工夫」「学習過程の工夫」を行う。授業の終末には、自己評価や振り返りの時間を位置付け、達成感や成就感を味わわせることで、児童の課題解決への意欲を高めさせる。

【実践】

1 自ら課題をもち、児童が進んで思いや考えを表現できる授業作り

①学習課題を明確にする。

・児童が興味をもって学習に取り組むことができるような課題を設定する。身に付けさせたい力を、学習経験や生活経験と結びつける。

1年「はなしたいな ききたいな」夏休みの体験を、スピーチにして発表会を開く。

3年「案内状を書こう」身近な人たちを、学芸会へ招待する手紙を書く。

5年「立場を明確にして書こう」作文の推敲を行い、より良い作文にする。

・身に付けさせたい「話し方」や「推敲の進め方」などを示し、参考にしながら考えさせたり、一人一人に話させたりすることで、自信をもって学習に参加できるようにする。また、振り返りの観点としても意識付けた。

②学習形態を工夫する。

・ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを明らかにし豊かな表現ができるような学び合いを取り入れ、興味・関心を高めさせる。

③学習環境を整える。

・「話す・聞く」「書く」「考える」などのきまりや、発表の仕方を教室に掲示し、学習時に活用させる。

・国語科に限らず他教科においても、国語辞典を活用させるようにする。

2 自己評価、相互評価を位置付ける。

①課題にそって自己評価を行う。

学習を振り返らせ、成就感や自己肯定感を味わわせることで、学習への意欲を高める。

②ワークシートの中に、自己評価や相対評価を取り入れ、課題に基づいた目標が達成されているかを観察する。

【成果と課題】

学習課題を明確にすることで、主体的に学習に取り組ませることができた。また、児童同士の相互評価や教師の励ましにより、次の学習意欲へとつなげることができた。さらに、自己評価や相互評価の方法を工夫していきたい。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適応問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【学校名】 南三陸町立伊里前小学校

【実践のねらい・概要】

校内研究主題「分かる喜びを味わい、意欲的に課題を解決する児童の育成」副題「算数科における基礎的基本的な力を身に付けさせるための指導の工夫を通して」の視点1「基礎的基本的な力を身に付けさせるための指導の工夫」の手立てに『①考える力を育てるための書く活動を工夫する。②適用問題を解く時間を設定し、問題の内容を工夫する。』の2つを付け加えることにより、書く力や適応力を付けることができるものとする。

【実践】 【指導案検討と模擬授業を実施した日】

- 4月26日 本年度の校内研究の視点1の手立ての見直し(①②を加えることを決定)
- 5月7日 学年部ごとの取組の内容を全職員で共有
- 7月2日 第1回授業研究(6学年)【6/24】
- 9月8日 第2・3回授業研究(1・5学年)【8/21】
- 10月3日 第4回授業研究(3学年)【9/25】
- 10月29日 第5回授業研究(たいよう学級)【10/8】
- 10月30日 第6回授業研究(あおぞら学級)【10/8】
- 11月26日 第7回授業研究(4学年)【11/5】
- 12月5日 第8回授業研究(2学年)【11/20】

〈具体の取組について〉

○適用問題に関する取組

- ・適用問題に取り組む時間を設定する。
- ・適用問題の提示の工夫。例えば、5問のうち2問は理解度の把握や習熟の目的で全員に取り組ませ、後の3問は時間に余裕のある児童に取り組ませる。
- ・適用問題の内容の工夫。例えば、1問は、理解度の把握や習熟の目的で全員に取り組ませ、後の1問は、難度を少し高くし、チャレンジ問題として取り組ませる。

○授業感想に関する取組

- ・授業の終末に感想を書く時間を設定する。
- ・授業のまとめをなるべく児童から出てきた言葉を使って表現することにより、その時間の学習でどんなことが分かったかなど、学習の振り返りができる内容にする。

【成果と課題】

適用問題の提示の仕方や内容を工夫したことにより、定着率が良くなってきた。学習感想は、「解決方法」「理解したこと」など書くことができるようになった児童が増えてきた。さらに、友達の考えの良さなどに関する内容についても書くことができるような工夫も必要である。



提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

【学校名】 気仙沼市立気仙沼中学校

【実践のねらい・概要】

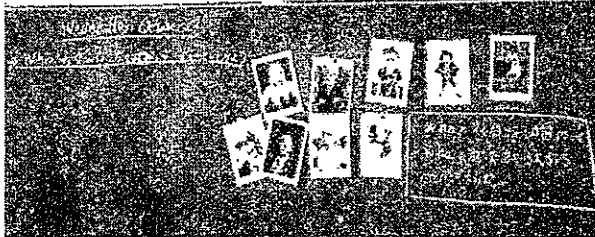
授業を終えたときの、ねらいに到達した生徒の具体的な姿を明確にしながら、課題を設定する。授業では、課題を提示する時に本時の評価（ねらいに到達した姿）も板書し、生徒に示しておく。終結時には、小テストや授業の感想等を記述させることにより、ねらいが達成されたか、教師も生徒も評価できるものとする。

【実践】

1 ねらいに到達した生徒の具体的な姿を明確にした指導案の例

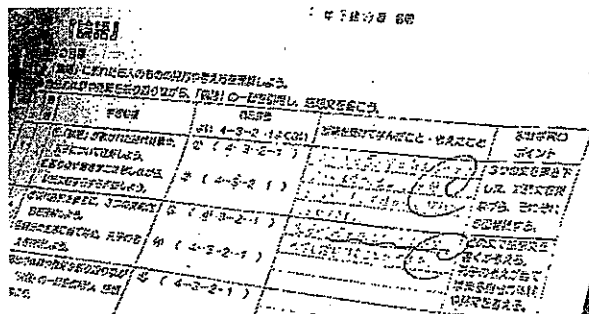
2 本時の学習内容と学習目標を提示する。	2 学習の凡通しをもつ。	学習目標を提示することで、本時の到達点を確認させる。
(学習目標)		
関数 $y = a \times x^2$ の変化を理解することができる。		
授業した後は、 $x$ の値が2倍、3倍、...となると、 $y$ の値は4倍、9倍、...となることを理解し、問題を解くことができる。		
3 教科書P.57の「ジェットコースターの速さ」の問題	3 問題を解く。 -表をもとに点をプロットしながらジェットコ	小問指導し、生徒の解答と適切な説明を行う。また、できていない生徒

数学科の研究授業の指導案の一部。導入段階で課題を提示する際に、ねらいに到達した姿も記述している。教師は、生徒の具体的な姿をイメージしながら授業実践を行った。



授業の導入では、英語科のように本時の課題と同時に、右下に評価も記述するようにしている。こうすることで、生徒は本時にどのような姿になればよいか具体的にイメージすることができる。

2 授業の終結時に感想を記述させる授業例



国語科では、単元毎に学習カードを作成している。授業の終結時には、授業で学んだことや考えたことをしっかり書かせている。こうすることで、生徒は、思考が整理されていく。その継続により、確かな学力が身に付いていくものとする。

【成果と課題】

授業のねらいと評価を板書するなど生徒に本時に身に付けてほしいことを具体的に提示したり、終結時には小テストや授業の感想を書く時間を設けたりする教科が多い。今後は、全教科で取り組めるよう情報交換や共通理解を図っていきたい。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

【学校名】 気仙沼市立大島中学校

【実践のねらい・概要】

生徒に1時間ごとの授業内容を確実に定着させることを目的とし、校内研究の副題である「ねらいの提示と振り返りを明確にした授業づくり」に全教科で取り組んでいる。

【実践】

ねらいの提示（導入）の実践事例

- ・理科…本時のねらいを板書で示し、ワークシートにも本時のねらいを書かせる。
- ・音楽科…ねらいの提示の仕方を工夫することで、「何をどのようにすれば今日のねらいを達成できるのか」を生徒が視覚的に理解できるようにする。（※写真1）

振り返りの活動（終末）の実践事例

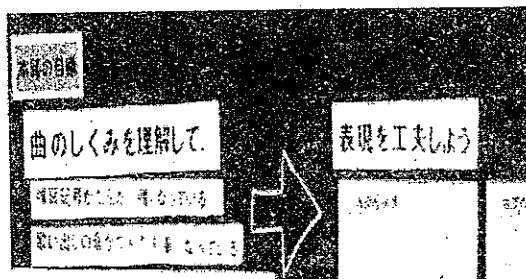
- ・国語科…学習内容についての小テストを取り入れた振り返りをする。
- ・英語科…授業で扱った基本文のディクテーションに取り組みさせる。正確に書けなかった文はノートの復習スペースに3回ずつ書くことを家庭学習とする。
- ・社会科…授業で分かったことを200字程度にまとめる。
- ・数学科…授業の終末に適用問題に取り組みさせ、間違えた問題を家庭学習とする。
- ・保健体育科…ねらいとまとめが一目で分かるよう、構造的な板書をする。

実践の活用の累積

- ・週案に実践記録を記述する。年間指導計画に「5つの提言ヒント集の活用」の欄を設けて結果を累積する。（※写真2）結果を次年度の年間指導計画に反映させる予定である。

（※写真1 音楽科）

（写真2）



- 世界の地域区分や国境について追究するために、地球儀や地図帳を適切に活用させる。（音）
- 主として集団や社会とのかかわりに関すること。（道）

【提言3】  
六大陸と三大洋、緯度と経度について確認テストを行う。  
9割の生徒が、正しく答えられている。

【成果と課題】

全教科で授業のねらいの提示と振り返りの活動を取り入れた結果、学習アンケートにおいて、「授業の課題や目標を意識して授業に臨んでいる」、「授業の終わりに自分が授業内容を理解したことが実感できる」と回答した生徒が増加した。

今後もこの取組を継続させていくとともに、振り返りの活動を家庭学習と関連させることにより、さらに学習内容の定着が図られると考える。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

【学校名】 気仙沼市立小原木中学校

【実践のねらい・概要】

本校研究テーマを、「意欲をもって学ぼうとする生徒の育成 ～学習課題の与え方の工夫をとおして～」とし、学習課題の内容や与え方の工夫について、主に研究授業の中で実践・検討していく。そのことにより、教師が毎時の授業のねらいをしっかりと把握すると同時に、生徒に学習のねらいを意識させながら学習させる。また、授業のねらいの達成について評価し、学びを確実なものにするため、授業の終わりに適用問題、小テスト、感想記入の場面を位置付ける。それらの実践により、生徒の学習しようとする意欲を高め、自ら学ぼうとする姿勢を育むことができ、『生きる力』の育成を図ることができると考える。

【実践】

- 4月 研究テーマ、研究計画等の共通理解  
標準学力調査（東京書籍）の実施、分析
- 5月 研究テーマについての理論研修
- 6月 第1回校内授業研究及び授業検討会の実施
- 7月 第2回校内授業研究及び授業検討会の実施
- 10月 第3回校内授業研究及び授業検討会の実施
- 11,12月 第4, 5回校内授業研究及び授業検討会の実施
- 1月 実践の成果と課題のまとめ



〈具体の取組について〉

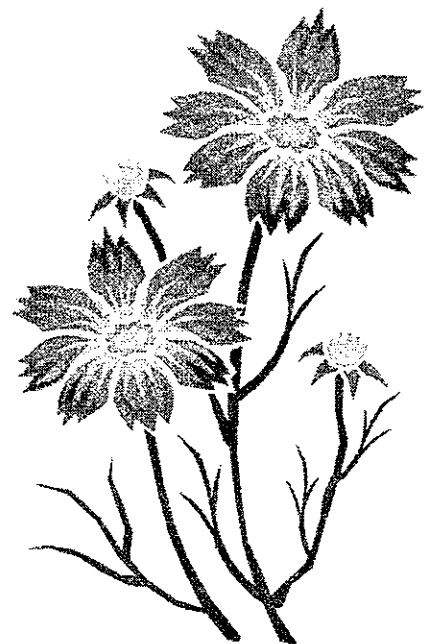
生徒の興味や意欲を示すような学習の課題を検討することにより、授業のねらいがはっきりし、教師は授業を組み立てやすくなった。具体的な本時の学習のねらいを、ICTや板書カードを活用して示すことにより、生徒は学習の内容とねらいを意識して学習に取り組むようになり、授業への取組も意欲的で、深く考えている様子がうかがえた。授業の終わりにICTや学習プリントなどを用い、適用問題、小テストを行うことにより、生徒の理解も深まり、教師は生徒の理解の程度やつまずいている点を押さえることができるようになった。また、授業感想や自己評価、ねらいに関して学んだことを自由記述する等の書く場面と時間を確保させたところ、生徒は、本時に学習したこと、考えたことなどをしっかりと表現していた。

【成果と課題】

学習課題の内容や与え方を工夫し、授業の内容を明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書かせる時間を位置付けることにより、生徒の理解や表現力の育成につながった。学習のねらいを、しっかりと教師が捉えること、考える時間や書く時間を確保するための授業の展開の工夫について、今後も検討を重ねていきたい。

## 提言4

自分の考えをノートにしっかり書か  
せること



提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立鹿折小学校

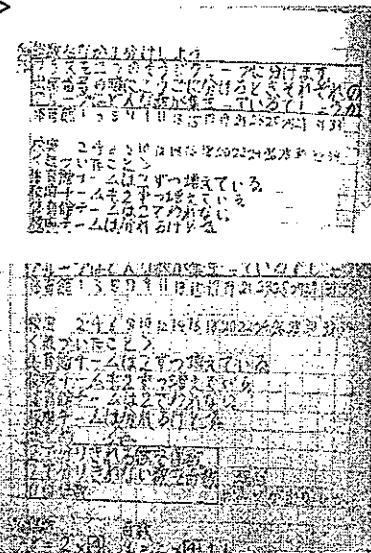
【実践のねらい・概要】

算数科で1時間の流れが分かるノート指導を行い、自力解決をする時間を確実に確保し、自分の考えをノートに書かせる。

【実践】

＜具体的実践例－5年「1時間の流れが分かるノート指導」＞

- ① 本時の問題を書く。
  - ・分かっていることや求めたいことにそれぞれ線を引き確認する。
  - ・立式を行う。
- ② 本時の課題を書く。
- ③ 解決方法を考え、その方法を書く。
- ④ 数直線や図などを使って自分で考えた方法で解く。  
その際、途中で違う考えにする時は、前の考えを消さない。
- ⑤ 本時のまとめを書く。
- ⑥ 適用問題を解き、感想を書く。



＜具体的実践例－3年「既習事項を生かして、自分の考えをノートに書かせる指導」＞

- ① 自力解決する時間を確実に確保する。
- ② ノートは見開き2ページを1時間の授業で使うようにする。

左のページ…問題，課題，自分の考え

右のページ…学習のまとめ，適用問題，学習感想

児童の思考の流れが明確になるように、板書を構造化しノートも同様にする。

- ③ 自分の考えを図や式で書いた際には、その説明を言葉でも書かせる。
- ④ 自分の考えを発表する際、実物投影機を活用する。
- ⑤ 考えを広げたり、深めたりさせるために、話し合い活動を行う。友達の考えで参考になったものはメモをとらせる。

話型を示し、発表の場で話型の意識付けを行うことで、話し方の順序の定着を図る。

【成果と課題】

＜成果＞既習事項を生かした自力解決学習ができるようになった。

＜課題＞自分の考えをノートに書けない児童がいる。

提言 4 自分の考えをノートにしっかりと書かせること

【学校名】 気仙沼市立松岩小学校

【実践のねらい・概要】

児童一人一人の「伝えたいことを自分の言葉で分かりやすく表現できる力」の育成を目標として、国語科「書くこと」の単元に焦点をあて研究を進めている。他教科や他領域においても、自分の考えを明確にもち、相手に分かりやすく表現する力を育めるよう「書く」活動の充実を図っている。

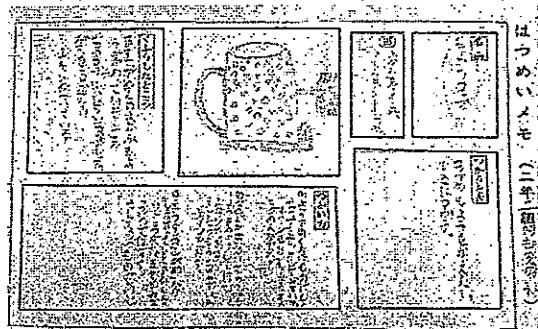
【実践】

○ 自分の考えを明確にし、根拠をもって相手に伝える力を育むため「構成」・「記述」に関する指導を進めている。

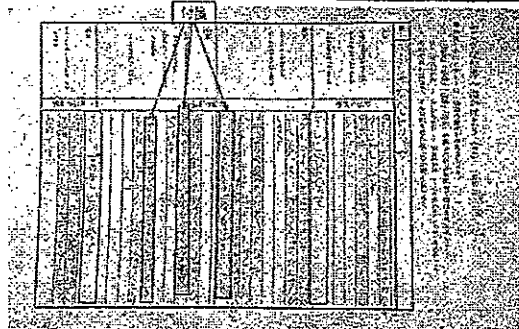
- ① 教科書掲載の「言葉の力」を確実に活用する学習計画の立案
  - ② 付箋紙を活用した「構成用ワークシート」の工夫
  - ③ ペア学習，全体での意見交流を取り入れた双方向で伝え合う活動
- 以上の3点を、有効な手立てと考え、各学年で学習に取り入れている。



5年生「ペア学習で構成をアドバイス」



2年生「発明メモ」  
○記述の順序を意識させるワークシート



5年生「ふしぎな世界へ出かけよう」  
○考えを付け足すための、付箋紙を活用

○ 学年段階に応じた「書くこと」のスキルアップ

- <低学年> 順序に沿った「構成」と前後の語句を考えた「記述」
- <中学年> 段落の相互関係に注意した「構成」と中心を明確にした「記述」
- <高学年> 文章全体を見通した「構成」と適切な表現による「記述」

○ 他教科・他領域に応用→お礼状(目的と形式)、新聞(内容の精選)、学習感想等  
4年 EM学習お礼状



【成果と課題】

- 校内研究で育成した「書く」力を他教科や他領域にも波及させ、学習内容を自分の言葉でまとめたり、自分の考えを整理し明確に相手に示したりする態度が身に付いてきた。
- 学年の目標に準じた思考力を伴う表現力を育成するために、各学年で身に付けさせるべき「書くこと」のスキルをより具体化して指導していく。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立面瀬小学校

【実践のねらい・概要】

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心に、「書く活動」をベースにした言語活動の充実を図っている。自分の考えをしっかりと書くことによって、児童は、自分の考えを見つめ直したり、友だちの考えと比べて自分の考えを広げたり深めたりすることができると思う。「書く活動」においては、「何を」「どのように」書かせるか、内容や方法を工夫することが大切である。

【実践】

○ 研究授業の実施

各学年ごとの研究授業を基にして、よりよい実践になるよう工夫する。(年間)

〈具体の取組〉

○ 授業における「書く活動」の工夫

1 学習プリントの作成と活用

ノート指導の一環として学習プリントを作成し、書く内容や書き方を学びながら自分の考えをまとめられるようにした。



1年生活科



5年総合

何を書くかを明確にすることによって、児童は、自分の考えや思いを巡らせながら、一生懸命学習プリントに書き留めようとしていた。児童は、自分が書いたものを基に、自信をもって発表していた。

2 付箋紙の活用

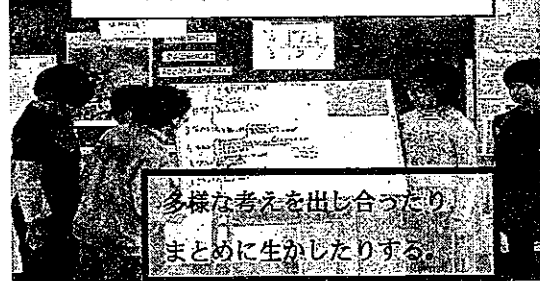
3年総合



友だちへのアドバイスとして、気付いたことを付箋紙に記入し手渡すことによって、自分の考えと友だちの考えを並べて比較したり、自分が気付かなかったことに気付いたりすることができた。児童は、相手によく伝わるように、簡潔に書こうとしていた。

3 その他

ホワイトボードの活用



多様な考えを出し合ったり、  
まとめに生かしたりする。

振り返りノートの活用

書く習慣付  
けに効果的  
であり、  
繰り返しの活動に  
も生かせる。

【成果と課題】「書く活動」を重視することによって、児童は、自分の考えや思いを自分の言葉で表現しようと一生懸命取り組んだ。しかし、上手く書けずに活動が滞る児童もいるので、書くスキルの向上や書かせ方の工夫を一層図る必要がある。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立唐桑小学校

【実践のねらい・概要】

授業の中に「書く時間」を確保した指導過程を工夫する。学年の発達段階に応じたノート指導を積み重ねることで、「書くこと」のスキルアップを目指す。

【実践】

自分の考えや、学習した内容をまとめるときなど、「書くこと」は、授業の中で欠かせない活動である。国語科の学習では、児童の発達段階に応じて、次のようなノート指導を心がけている。(上段は教師側、下段は児童)

〈低学年〉 字数やマスの使い方を考えて板書する。

板書の内容を正しく、丁寧にノートに書くことができる。

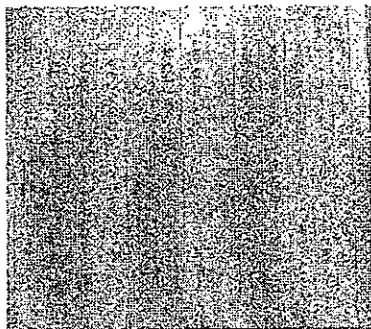
〈中学年〉 児童が自分の考えを書けるような板書を工夫する。

学習課題や授業の感想をしっかり書くことができる。

〈高学年〉 学習の跡が分かるような板書を工夫する。

友達の見解を書き加えたり、必要な事柄をメモしたりすることができる。

また、良いノートを紹介したり、校内研修の中でノート指導について共通理解を図ったりするなどの手立ても講じているところである。



〈友達の見解も書き加えながら〉  
－ 6年国語のノート－



〈先生と同じスピードで、正しく〉  
－ 1年生の授業より－

【成果と課題】

半年の取組の中で、「授業の感想が素早く書けるようになった」「読み取ったことを要約して書く力がついてきた」「書くことを厭わなくなった」などといった成果がみられるようになってきた。

しかし、語彙が少ないために自分の思いを十分に伝えられない児童や、書くことに苦手意識をもっている児童もまだ見られる。ノート指導を繰り返し行うとともに、授業以外にも、読んだ本の感想をまとめる、新聞の気になる記事の感想を書く、手紙や日記を書くといった、様々な書く活動を取り入れることにより、「書くこと」のスキルアップを目指していきたい。



【学校名】 気仙沼市立津谷小学校

【実践のねらい・概要】

本校では、昨年度まで算数科のノート作りに重点を置いた校内研究を行ってきた。更に今年度は、研究教科を国語科にし、昨年度のノート作りを土台に「書くこと」「話すこと」を取り入れた指導過程などを工夫しながら、進んで表現しようとする子どもの育成に取り組んでいる。

【実践】

○ノート指導の実際（6年生の例）

題材名 学校の良さを宣伝しよう（5月実施）

本単元では、学校の「良さ」と「課題」について取り上げ、見方を変えて「課題」も良さとして捉え、紹介するという学習内容である。

「良さ」は黄色、「課題」は緑色の短冊にそれぞれ書かせ、児童のノートに添付させた。「良さ」と「課題」についてそれぞれ詳しく説明するための文章を書くのだが、分量が増えたり減ったりしても、仮止めののりで貼付してあるので自由に動かすことができる。さらに、グループで書いた文章を友達同士で添削する際には付箋紙を活用した。時間を区切って友達の文章について書かせる活動を行った。友達からもらった付箋紙には、良い点や改善点が記されていて、色分けにより一目で分かるようになっている。付箋紙なのでノートに直接添付することができ、賞賛やアドバイスを文章の校正に生かすことができるので、自分の書いた文章に自信をもって発表することができた。意見の交流に付箋紙を活用したことで、文章を書く際の条件制御などをしなくても、短く簡潔に自分の思いを表現することができた。

さらに、別の場面では付箋紙の大きさを変えて文章を書く際の構成や短歌の学習で活用した。書いた付箋の順番を入れ替えることで、自分の書いた文書をじっくり吟味し、正しい構成で文章を書いたり効果的な表現の方法に気付いたりすることができた。



【成果と課題】

○ノート指導を丁寧に進めるうちに、書くことへの抵抗が減った。また、付箋は手軽で様々な場面に有効に使える可能性を秘めている。更に活用場面を工夫したい。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

【学校名】 気仙沼市立馬籠小学校

【実践のねらい・概要】

各教科等の学習指導の中で、授業のねらいに関して重要語句を使って自分なりにまとめたり、主な発問に対する自分の考えをノートに書いたりする学習活動を通して、本校の研究にも掲げている「言語活動」の充実を図ることができるものと考えた。

【実践】

1. 授業評価表の活用

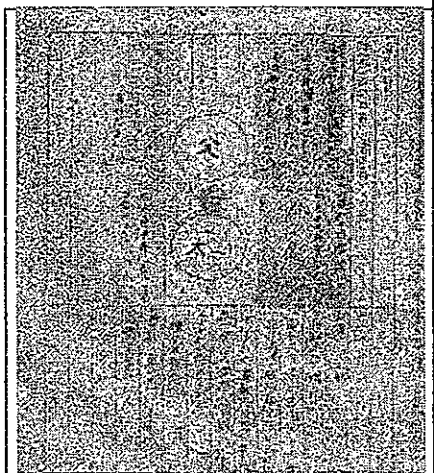
・教師が「5つの提言」を意識しながら指導にあたるため、研究授業において「5つの提言」を観点とした授業評価表を活用している。これまで、4回の授業研究を行い「ノートに自分の考えをしっかりと書かせることができたか」という項目については平均4.2ポイント（五段階評価）となった。授業の中での具体的な場面や、その有効性等についても評価し、事後検討会等の機会を活用し、検証している。

5つの提言より		点
1	○子どもが自分の考えを積極的に発言できたか。 【具体的な場面等】	5
2	○子どもが意見を認め、促める発言があったか。 【具体的な場面等】	5
3	○本時のねらいは具体的にだったか。（押さえる力の明確化） 【具体的な場面等】	5
4	○授業の授業に、授業開始時や終了時等に配慮がされていたか。 【具体的な場面等】	5
5	○ノートに自分の考えをしっかりと書くことができたか。 【具体的な場面等】	5

授業評価表の活用

2. ノートづくりの工夫

・児童の実態から「書くこと」への苦手意識があることを学校全体で共通理解し、その手立てとしてノート指導の重要性を確認して指導に当たった。例えば、第6学年では、ノートを上段と下段に分け、上段に課題や全員で話し合ったことを書き、下段には主に自分の考えや思いを書くようにした。また、その時間のまとめとなる言語活動の「〇〇への手紙」や「感想」なども下段に書くようにした。そうしたことで、「マイノート」という意識も高まり、書く活動への抵抗感も少なくなった。また、友だち同士で考えを交流させる時には、いい考えだと思うものを青ペンで加筆し、相互評価させる時には付箋等を活用するようにしたことで、児童の学習の記録にもなり、意欲も高まった。



第6学年 国語「海のいのち」

3. ワークシートの工夫

・「マイノート」を作成する前段階として、ワークシートにまとめる活動を工夫した。一単位時間のねらいにせまる学習活動では字数を制限したり、重要語句を使ってまとめたりするなどの工夫をした。ワークシートの内容については、児童の実態や学年の発達段階に応じたものを作成し、書く時間を確実に設定するようにした。

【成果と課題】（○成果と考えられること ▲課題と考えられること）

- 一単位時間の中に、自分で考えて書く時間を設定してきたことで、「書くこと」に対する抵抗感が少なくなってきた。
- ▲今年度は、国語科を中心に取り組んできたが、他教科・領域でも「言語活動」を充実させるために職員間で共通理解のもと指導にあたる。
- ▲学年段階に応じたノートの使い方の工夫を考え、統一見解で指導にあたっていく。
- ▲段階によっては、条件（文字数や段落等）に合わせて書く訓練を積み重ねていく。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

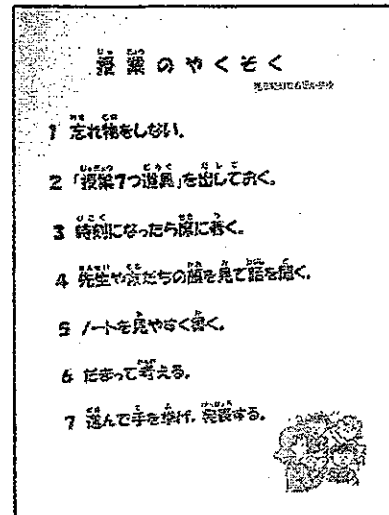
【学校名】 南三陸町立名足小学校

【実践のねらい・概要】

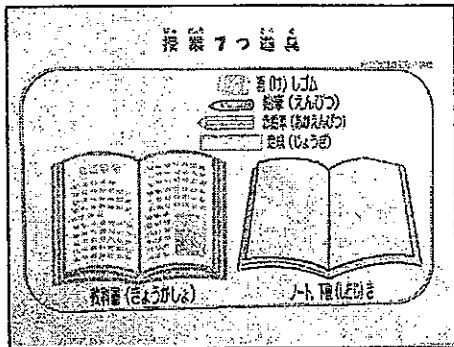
日々の授業の中で書く時間を確保し、自分の考えをノートに書いて言葉や絵や図で適切に説明できる力を高めながら、思考力・判断力・表現力を伸ばしたいと考えた。

【実践】

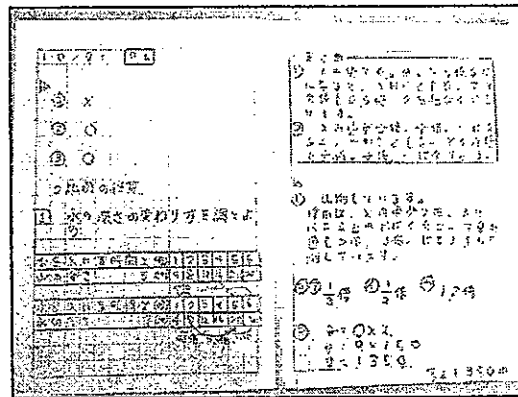
4月当初の研究全体会でこれまで続けてきた「名足スタイル」の全校共通の約束について確認した。担任が替わっても児童が前年度までと同じペースで学習に集中して取り組むことができるように、震災前からの約束を震災後も継続している。特にノートに自分の考えを書くことについては、絵や図を用いてヒントとし、自分なりの言葉で書くことができるようになってきた。グループで話し合ったり、友達の前で自分の考えを発表したりする活動を通して自信を付け、「もっとたくさん問題を解きたい」「自分の考えをしっかりと書くことができるようになってきた」などの前向きな感想が数多く見られるようになってきた。日々の授業に意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになり、教師自身も手応えを感じながら取り組んでいる。



<「授業の約束」>



<「授業七つ道具」>



<6年生 (比例) の学習ノート>

【成果と課題】

「丁寧に美しく書く」ことはもちろん「自分の考えを言葉や図や絵で書く」ことに慣れ、落ち着いて学習に取り組む様子が見られる。低学年から積み重ねてきた成果として、構造的な板書で見やすく捉えさせることで題意を理解しやすくなり、自分なりに工夫しながらノートにまとめる力が向上してきた。個に応じた適切な支援をしながら、児童一人一人が達成感や満足感を得られるような授業作りを工夫していきたい。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立新月中学校

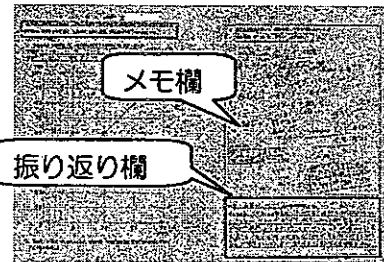
【実践のねらい・概要】

校内研究の視点の1つ「考える力を育てる授業づくり」ではメモを取る習慣の形成、根拠を明確にして自分の考えを書くことの指導、授業の振り返りを文章表現させることなどを意識して行っている。また「表現する力を育てる授業づくり」では、「新聞コラムの書き写し活動」や言語交流活動「新月中サークルタイム」の実践の中に「書く」活動を取り入れている。

【実践】

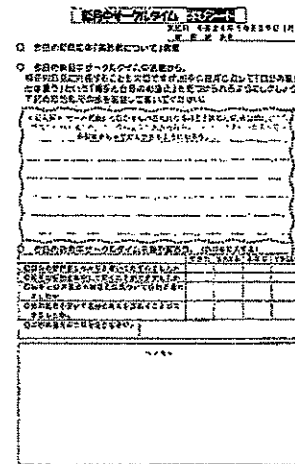
〈ノート（ワークシート）づくりの指導を工夫する〉

- 意見交流や話し合いでは、級友の考えなどについてメモをとる習慣を身に付けさせ、メモの取り方についても指導している。
- 根拠を明確にして自分の考えを書かせたり、交流を通して気付いたことや新たな考えを書かせたりしている。
- 「振り返り」を大切にし、課題に対するまとめについても根拠を明確にしながらか自分の言葉で書かせている。



〈「書くこと」のスキルアップを目指す〉

- 新聞コラムの書き写し活動
  - ・朝読書の10分間を活用して毎週1回実施している。
  - ・コラムに対する自分の考えを根拠を示して書かせている。
  - ・この活動から、生徒の語彙が豊富になり、簡潔でわかりやすい文章を書くことができる生徒が多くなった。
- 「新月中サークルタイム」の実施



・コラムの感想を持ち寄り、全校縦割り班で意見交流する活動を総合的な学習の時間に実施している。

・友達の見解を聞く際は、必要なことを素早くメモするよう指導している。最後に、「書く時間」

を確保し、意見交流を通して自分の考えがどのように変容したのかを文章でまとめさせる。

・この活動から、メモをとる習慣が身に付いた。また、下級生上級生の表現やスキルを学ぶ良い機会となった。

【成果と課題】

「全職員で取り組む校内研究」を目指し、共通理解のもとで、上記の取組をはじめ「5つの提言」を意識した授業づくりの工夫・改善を行ったところ、生徒の学力向上につながると共に、生徒の表現力が高まってきたと感じる。今後も実践を継続していきたい。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 気仙沼市立唐桑中学校

【実践のねらい・概要】

「提言4」の「書くこと」の充実を目指し、朝読書の時間に集団読書を取り入れ、視写などの活動に取り組ませている。

【実践】

○ 書く活動を取り入れた集団読書活動の実施

(1) 実施目的

- ・ 人間や社会や自然など様々なことに関心をもたせ、読書の楽しさを理解させ、生徒の言語力を高める。

(2) 実施方法

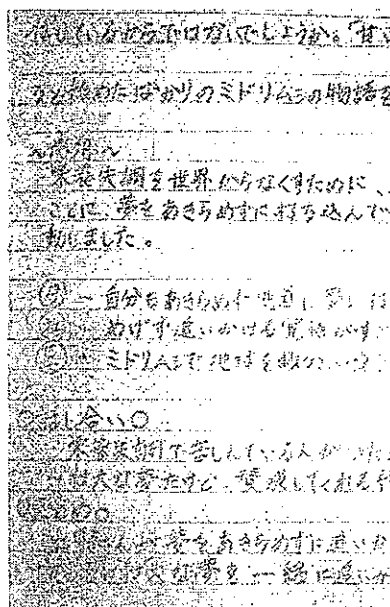
- ① 準備：生徒個人ごとに読書ノート（大学ノートA4版）を用意させる。

- ② 時間：朝読書の時間（毎朝15分間）の日程を以下のように設定した。

- ③ 手順：実施手順は以下の通り

- ・ 1日目は、文章を視写する活動を行い内容を理解させると共に、書くスピードを上げるために、短時間でできるだけ多くの文章が書けるように訓練している。ノートに視写するときには、1行おきに行間を空けてさせる。時間内に書き終えられなかった場合は翌日までの宿題とする。
- ・ 2日目は、昨日1行おきに行間を空けて視写した文章について、大切だと感じた部分に線を引いたり、感じたことや疑問を書き込んだりして、自分の考えや感想を3行にまとめて書き、自分の意見をもたせる。
- ・ 3日目は前日に書いた感想を持ち寄り、集団で話し合ったり討論して、ノートにメモをとる力をつけたり、自分の考えをさらに深めたりする。また、最後のまとめとして、自分の考えを2～3行の文章に再度まとめなおすことで、思考力や表現力を育成を目指してきた。

【生徒の読書ノート（部分）】



【成果と課題】

- 朝読書に集団読書を取り入れ、書く活動を重視して取り組んだことで、生徒は、自分の考えを文章にまとめることができるようになってきた。しかし、自分の考えを相手に論理的に説明したり、他者と議論し、よりよい考えを生み出したりできる生徒はそう多くないので、生徒の思考力や表現力を高める取組をさらに工夫していきたい。
- 書く活動を重視したことで、生徒のノートやメモを取る意識が高まり、各教科の授業のノートやワークシートの内容が充実した。また、メモを取る意識は、様々な場面で活用され、書くことのスキルアップにつながった。書く力には、個人差が大きいので、さらに個別に指導をする必要がある。

提言 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

【学校名】 南三陸町立志津川中学校

【実践のねらい・概要】

言語活動の基礎・基本を意識した板書の工夫，思考を深めるノート指導（学びの可視化），自分の考えを文章にまとめる場面の設定など，「書くこと」に視点をおいた授業づくりを行うことで，主体的に学ぶ生徒を育成する。

【実践】

校内研究の副題を「書くことに視点をおいた授業づくりを通して」とし，全員が1回以上研究授業を行い，ワークショップ形式で事後検討会を行う。

- 6月27日 校内授業研究会①（3名）
- 7月15日 校内授業研究会②（3名）
- 7月 生徒実態調査実施① 実態調査の考察（学年）
- 9月 5日 校内授業研究会③（2名）
- 10月23日 校内授業研究会④（2名）
- 11月25日 校内授業研究会⑤（3名）
- 12月 校内授業研究会⑥（3名）
- 12月 生徒実態調査実施② 実態調査の考察（前回との比較，考察）
- 1月 校内授業研究会⑦（3名） 研究のまとめ

〈具体の取組について〉

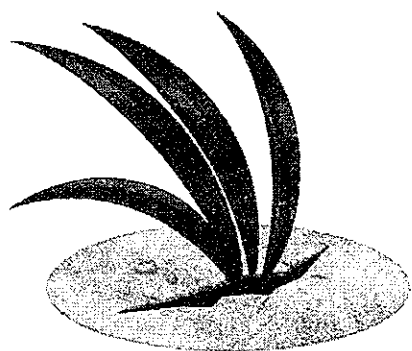
- 考えを書く時間を確保する。
  - ・授業のまとめに「わかったこと」「感じたこと」をノートに書かせる。
  - ・実験前に仮説をノートに記入する。（文型）
- 「板書」のあり方を工夫する。
  - ・「板書のしかた」の統一（・本時の目標の提示，チョークの色の統一，定規の使用）
- ノートづくりの指導の工夫
  - ・ノートの分割（上段は板書，下段は自分の考え，友だちの意見，教師の発言のメモなど）
  - ・思考の流れが分かるノートづくり。（自分の考えと違う友人の意見をペンの色を変えてノートに書きたず，仮説と結果の文章化）
- 「書くこと」のスキルアップを目指す。
  - ・時間や量の指定（○分以内，○行以上，○個以上など）

【成果と課題】

- ・「書くこと」に対して抵抗感が薄れ，工夫したノートづくりが見られるようになった。
- ・板書の工夫がノートづくりにもつながることから，より精選した板書が求められる。また，「ノート指導」についてさらに研修が必要だと感じる。

## 提言5

家庭学習の時間を確保すること



提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 気仙沼市立気仙沼小学校

【実践のねらい・概要】

家庭学習の方法を提示し励ますとともに、家庭と協力して家庭学習の時間を確保する。また、放課後に学習を支援する時間を確保し児童の学習を支援する。

【実践】

(1) 家庭学習の定着「はなまるカード」

本校では「はなまるカード」※1を月単位で発行し、家庭学習の様子を記録して担任に提出させることで、毎日の家庭学習を習慣化できるように励ましている。また、学年に応じた家庭学習を児童と家庭に知らせ、家庭学習に安心して取り組むことができるようにしている。※2  
宿題や家庭学習の内容や量は全担任で共通理解し、学年の発達段階に応じたものになるように出題している。また、上学年と下学年で様式を変え、家庭の関わりは、下学年の方が多くなるようにしている。

この取組により「家庭学習を毎日行うことは当たり前のこと」という意識が児童の中にできてきている。

(2) 学習支援「放課後学習支援」

毎週火曜日を「放課後学習支援の日」として希望児童の学習支援を行う時間を確保している。

この取組は児童の学習の基礎基本の定着を主なねらいとして行っており、学年や学級を基本単位として取り組んでいる。

この取組により、児童の基礎基本の定着や、きめの細かい実態把握を行うことができるようになり、普段の授業に生かすことができている。

気仙沼市立気仙沼小学校  
家庭学習はなまるカード

日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1																								
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
10																								
11																								
12																								
13																								
14																								
15																								
16																								
17																								
18																								
19																								
20																								
21																								
22																								
23																								
24																								
25																								
26																								
27																								
28																								
29																								
30																								
31																								

家庭学習メニューの例

1. 算数	九九表の暗唱、簡単な計算問題の練習。
2. 国語	教科書の読み取り、簡単な読解問題の練習。
3. 英語	教科書の読み取り、簡単な英単語の練習。
4. 理科	教科書の読み取り、簡単な実験の観察。
5. 社会	教科書の読み取り、簡単な社会問題の練習。
6. その他	自由学習、読書のすすめ。

【成果と課題】

「はなまるカード」の取組により、家庭学習に取り組むことが習慣化してきていることは大きな成果と言える。しかし、個人差も大きく、なかなか習慣化できない児童もあり、家庭との協力が必要である。

「放課後学習支援」により基礎基本の定着に対しての効果が認められる。発展的な学習に対してどのような取組ができるのかが今後の課題である。



提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 気仙沼市立階上小学校

【実践のねらい・概要】

「家庭学習の時間を確保し、その充実を目指していくこと」を全職員で共通理解し、各学年でその内容や方法を工夫することで、児童の知識・理解の定着と学習習慣の形成を図ると共に、学習意欲を高めていく。また、それらを職員間で情報交換し、成果や課題を共有する。

【実践】

○ 昨年度から全校で漢字検定を実施している。漢字検定協会から事前に各級の問題集を取寄せ、家庭にも呼びかけて自主学習の題材として取り組ませている。この漢字検定を目標に意欲的に漢字学習に取り組む児童も多くなった。このような目的意識や目標を明確にさせた学習は、児童の意欲を喚起する。また、保護者の関心も高くなり、児童に対する家庭での支援や励ましも多いようだ。

○ 「書くこと」の力の向上を目指して家庭学習に取り組ませている学年も多い。

2学年では、週末の出来事を日記形式で書かせる課題を毎週出している。児童は、担任に自分のしたことや思いを伝えようと意欲的に書いてきている。担任はその週の間で全員の作文に目を通し、コメントを入れる。このやりとりが「伝え合う力」の育成にあたっての一助になっていると共に、児童の「書くこと」への意欲をさらに高めている。この実践は、1学年時から継続して取り組んでいるものであり、児童の思考力・表現力の向上に結び付いている。

5学年では、毎日テーマを工夫しての作文を家庭学習の課題としている。テーマの例としては、「自分の家の夕食のメニューをおいしそうにレポートしよう」「担任の先生について思っていること」等がある。児童は400字程度の文章を毎日書くことになる。9月から始めた実践であるが、児童は楽しんで作文を書くようになってきている。さらに、よく書けているものや工夫されているものを選んで全体に読み聞かせることによって、その良さや工夫を感じ取り、以後の各自の作文に生かせるようなシステムをとっている。

「書くこと」の指導においては、まず、「書く」という言語活動に抵抗感をもたずに取り組めることが大切である。今後も、「書くこと」に対する児童の意欲の喚起を図りながら実践にあたっていきたい。

【成果と課題】

目的意識や目標をもたせたり、楽しみながら取り組めたりするような家庭学習の内容を工夫することにより、児童は前向きな姿勢を示している。今後は、全学年を通して取り組ませていく内容や、共通理解を図るべき方法等を検討していきたい。また、土日の家庭学習の時間が少ない傾向にあるので、児童が興味・関心をもって取り組めるような内容を工夫し、実践していきたい。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 気仙沼市立大島小学校

【実践のねらい・概要】

全校で統一した家庭学習カードを活用し、家庭での学習への取組や早寝・早起き朝ごはん等の生活習慣の定着も図る。保護者に向けた「家庭学習の手引き」や、児童に対する「自学メニュー」等も配布し、保護者の理解のもと、質的・量的両面から高めるように活用させる。

【実践】

○4月の第1回職員会議で、全校で統一して活用する家庭学習カード「しまっ子がんばりカード」(図1、図2)と、「家庭学習の手引き」「自学メニュー」の内容について確認し、学級担任が、これらの活用の仕方について共通理解した。「しまっ子がんばりカード」の取組は、本校で平成20年度から実施しているもので、本校の具体的重点目標の一つである「早寝・早起き・朝ごはん・ゲーム1時間以内」運動を具現化するための手立てである。

↑図1しまっ子がんばりカード

がんばりカード☆		学年		名前		生活の様子	
氏名	学年	家庭学習	早寝	早起	ゲーム	朝ごはん	その他

↓図2しまっ子がんばりカードのコメント

20分	○	OK	
60分	○	OK	
50分	○	OK	4/12日 17時
20分	○	OK	4/12日 17時
30分	○	OK	
30分	○	OK	4/12日 17時
きた	○	サイン	まだ
う少し	△	は	押印を
さなかった	×		願います。

- さらに、4月半ばに「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭学習の取組について理解してもらおうようにした。4月18日の学習参観日には、「しまっ子がんばりカード」と、「家庭学習の手引き」を資料として、各担任から取り組み方について説明するとともに、新年度が始まってからの家庭での学習の様子を聞いた。
- 「しまっ子がんばりカード」の取組は、各学級で月末に振り返りをする。次の月の「しまっ子がんばりカード」を配布し、めあてをもたせる。担任は、子どもの取り組みの様子に合わせてコメントを入れながら、頑張らせたい点を個別に指導する。
- 新年度が始まった週の学級活動の時間に、3年生以上の学年で、統一した「自学メニュー」を活用し、自主学習で取り組むことのできる内容について指導した。
- 担任は、学級での活動の時間に、「しまっ子がんばりカード」の取組がしっかりされている子どもの様子や、工夫して取り組んだ自主学習の内容、しっかり構成して書いたノートなどを見せ、範例として示す。取り挙げたノートの写しや内容を学級通信で保護者にも伝え、子どもが頑張っている様子や工夫について、家庭での実践につなげるように把握してもらう。

【成果と課題】

「しまっ子がんばりカード」の全校の提出率は100%に近い。取組の成果として、本校の児童は全体的に学習を聞く姿勢が落ち着いており、トラブルが少ない。保護者の事情により取組の仕方に個人差が見られるので、家庭との連携について働きかける手立てが必要である。

【学校名】 気仙沼市立小泉小学校

【実践のねらい・概要】

学力向上のための家庭学習の在り方について全職員で検討し、当校児童にとって効果的な家庭学習の在り方について探る。

【実践】：5 学年

- 4月10日 「自学」の進め方の指導  
・「ルールと方法、内容」を示し、学年にふさわしい取組にするよう呼び掛けた。
- 4月20日 「学校運営説明会」で「家庭学習の手引き」を全学年の保護者に配布  
・家庭学習の大切さや取り組む時間のめやすなどを示し、家庭への協力を呼び掛けた。
- 5月26日 「期間限定 家庭学習振り返りカード」への記入  
・2週間の家庭学習の取り組みを児童に振り返らせるとともに、さらに伸ばしたいことや家族の一員としての手伝いに取り組むようにさせた。
- 7月18日 「夏休み用自学」の進め方の指導  
・長期休業中の自学への取組について示し、有意義な休みになるよう呼び掛けた。
- 7月25日 「学校運営反省会」で家庭学習への取組についての検討と分析  
・全学年の児童と保護者からのアンケート結果をもとに、全職員で家庭学習への取組について振り返った。
- 9月 3日 「全国学力・学習状況調査」児童アンケートの結果の分析  
・研修日で、家庭学習についての児童の記入内容について分析し、より効果的な取組への方策を探った。
- 10月28日 「県学力・学習状況調査」児童アンケートの実施  
・児童の記入内容について分析中である。
- 2月 4日 今年度のまとめ

※ 多くの児童が被災し、保護者の車で登下校する児童も多数いる。そこで保護者を待つ間、放課後に教室に残って家庭学習をすることを認めている。

【成果と課題】

家庭学習への取組について、全職員で成果や課題について共有することができた。今後も、様々な機会をとらえて、学力向上への効果的な家庭学習の在り方について探っていきたい。

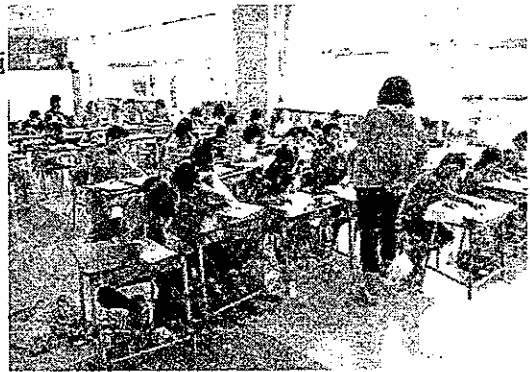
【学校名】 南三陸町立戸倉小学校

【実践のねらい・概要】

家庭学習の内容や方法を提示したり、放課後や長期休業中に学校で自主勉強ができる環境を整備したりし、児童の実態に合わせた学習に取り組ませることによって学習内容の基礎基本の定着とともに学力の向上を図る。

【実践】

- 6月23日 学級担任へ「家庭学習への取り組み方」についてアンケート実施
- 7月7日 職員会議において夏季休業中の勉強会の持ち方について提案
- 7月18日～8月22日 夏季休業中の勉強会実施
- 8月29日 学級担任への「5つの提言」について実践していること、成果、課題についてアンケートを実施
- 9月5日 「家庭学習の手引き（保護者用・児童用）」「放課後学習計画」「生活習慣チェックカード」の検討
- 9月22日 職員へ「家庭学習の手引き（保護者用・児童用）」「放課後学習計画」「生活習慣チェックカード」の提示と説明
- 9月30日 家庭・児童へ「家庭学習の手引き（保護者用・児童用）」「生活習慣チェックカード」の配布と説明
- 10月1日 「家庭学習の手引き（保護者用・児童用）」「生活習慣チェックカード」の実施
- 10月2日 第1回放課後学習の実施



〈具体の取組について〉

家庭学習の手引きにおいては南三陸町で作成したものを基に低・中・高学年の実態に合うような参考例を入れて学校独自の手引きを作成し、児童が実践している。先生に出された課題以外に子どもたちもそれを参考に自分なりに工夫して家庭学習に取り組めるように作成した。また、保護者に家庭での起床・就寝時間や朝食摂取の有無を生活習慣チェックカードに記入していただくことで、基本的な生活習慣について意識付けを図ることを目的として活用している。

【成果と課題】

生活習慣チェックカードへ記入することで気をつけて生活しようという意識付けにつながってきている。家庭学習の手引きについては、始めたばかりで成果となって表れていない。家庭学習については担任から課題を出されるため、家庭学習に対して受け身的である。学習意欲を高めるためにも各担任に自主勉強の大切さを知らせ、各学年で自主勉強への意識を高めていきたいと思っております。

【学校名】 気仙沼市立鹿折中学校

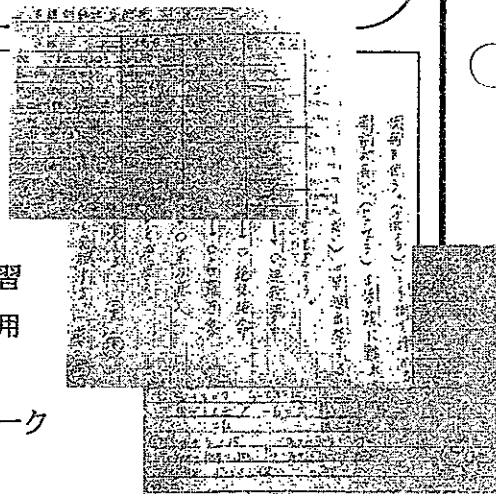
【実践のねらい・概要】

各種アンケートの結果から、本校生徒の家庭学習習慣があまり定着していない実態がうかがえるので、以下の取組を年度当初から実践している。

- ①『ジャンプ』（学習の手引き）で家庭学習の取組方などの指導をしている。
- ②定期的に学習相談を実施している。
- ③教科担当が家庭学習の習慣付けを意識したワークシートを作成している。
- ④ステップノート（家庭学習ノート）の毎日の提出とその活用を促している。

【実践】

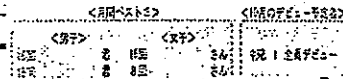
- ①年度当初の授業開きなどで『ジャンプ』を配付し、各教科学習への取組方などについて指導しているが、併せて家庭学習の仕方などについても指導している。
- ②夏休みや定期テスト前に学習相談を実施している。家庭学習習慣の醸成と学習のつまずきをフォローする時間として活用している。
- ③各教科担当が、学習の振り返りが家庭でもできるようなワークシートを、創意工夫の上作成し活用している。
- ④家庭学習が継続的に取り組むことができるよう、毎日ノート2ページを目安に取り組ませている。生徒の意欲喚起のため、その取組をお互いに紹介し合う機会を設けたり、家庭に対して学級だよりなどを通して提出の紹介などを行ったりしている。また、学習内容やその取組について個別指導に努めている。



ステップノート例

ステップノート(9月)

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月	5	4	3	2	1	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
火	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
木	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
金	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
土	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								
日	24	25	26	27	28	29	30	31										



学級だよりで家庭への啓発

【成果と課題】

これまでの実践を通して、学習相談に意欲的に参加する姿が見られるようになったり、ステップノートの提出率が以前よりは上がったりしているものの、家庭学習習慣がしっかりと身に付いているかという点、まだまだという状態である。

今後もこれらの実践を継続する中で、『ジャンプ』に掲載している内容を教科担当がさらに改善し、生徒にとってその活用の有用性を感じさせられる内容にしていきたい。また、学習相談のみならず、常日頃から学習のつまずきをフォローできる授業づくりと家庭学習でも活用できるワークシートづくりなどを意識していきたい。加えて、子供たちの家庭学習の取組が見えるステップノートの提出チェックやノート活用のはたらきかけなどについては、学級担任だけでなく他教員からのバックアップなども試みていきたい。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 気仙沼市立松岩中学校

【実践のねらい・概要】

本校の生徒は、授業にまじめに取り組み、与えられた課題や指示にはしっかりと取り組もうとする。しかし、自ら課題をもち、主体的に授業に臨んでいる生徒は少ない。また、家庭学習の時間が十分に確保されていなかったり、継続して行っていないかったりするため、基礎学力の定着が十分に図られないまま授業が進み、学習のおもしろさや課題を解決した時の達成感を実感できない生徒が多い。そこで、家庭学習の時間の確保と習慣化を図るようにすることが望まれた。

【実践】

- 1 授業の中で、授業内容と関連付けた家庭学習の課題を与え、それを授業の中で生かすようにした。このことにより、家庭学習の時間を確保させることができるようになった。また、授業の中で生徒に活躍の場を与えることで生徒は自信をもって学習に取り組めるようになった。
- 2 自主学習ノートを毎日提出させ、学級担任がチェックし、励ましやアドバイスをノートに書き込んでいる。このことにより、根気強く家庭学習を継続している生徒が多い。
- 3 5教科の基礎的・基本的な学習事項の確認を毎週水曜日に小テスト形式で行っている（「すいすいスタディ」）。その課題を週末前に提示し、家庭学習として行わせている。このことにより、生徒は、すいすいスタディの合格をめざし、家庭学習をしてきている。
- 4 半月ごとに学習計画表を作成させ、見通しをもたせ、計画的に家庭学習をさせている。また、朝の会で前日の家庭学習を振り返らせ、反省を書かせ、計画の修正を行わせている。また、半月ごとに、保護者に検印してもらっている。生徒の家庭学習の状況を把握し、励ましなどをしてもらうようにしている。このことにより、生徒は自ら進んで、計画的に家庭学習に取り組もうとする意識が芽生えてきた。また、保護者も子どもの家庭学習への関心を高めるようになった。
- 5 5教科の家庭学習の仕方をまとめた「学習の手引き」を作成し、1年生に配付している。これを教科、学活、面談などで活用し、学習の仕方を指導している。

【成果と課題】

以上の工夫を意図的にしていることにより、生徒の家庭学習の時間はある程度確保されている。しかし、現時点では、教師主導であり、生徒自らが課題意識をもって、進んで学習するところまでには至っていない。今後は、なぜ家庭学習をしなければならないのかなどの学習の意義を十分理解させるなどし、生徒自らが主体的に家庭学習に取り組むようになる工夫をしていかなければならないと考える。

提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 気仙沼市立階上中学校

【実践のねらい・概要】

学習習慣と生活習慣の見通しをもたせるため、「学習ガイドライン」と「学習プラン表」の活用を図るとともに、各学年毎における家庭学習時間目標を設定し、教師のチェックや励ましのコメント等をとおして継続的に取り組ませることができると考える。

【実践】

- 4月4日(金)「職員会議」各学年毎における家庭学習時間目標等を確認。
- ① 家庭学習の習慣化を目指し、1学年毎日60分以上、2学年毎日90分以上、3学年毎日2時間以上の家庭学習の割合で、平均8割以上の達成を目指します。
- ② 家庭におけるゲーム一日30分以内運動を推進し、8割以上の達成を目指します。
- ③ 「早寝早起き朝ごはん」運動を推進し、朝ごはん三点セット(主食、汁物、おかず)の達成率8割以上を目指します。
- ④ 毎月「チャレンジタイム」(国、数、英)を行い、1回目の合格者数各学年平均7割以上を目指します。
- ⑤ 期末テスト(含中間テスト)で、各学年平均(65)%以上の正答率を目指します。
- 4月7日(月)「校内研修」 「学習ガイドライン」、「学習プラン表」についての検討。
- 5月29日(木)「学校だより」にて家庭学習について保護者に啓発。
- 7月18日(金)1学期の取組についての集計

調査項目	1 学 年	2 学 年	3 学 年
①家庭学習の時間	平均学習時間 85分 (+25分)	平均学習時間 75分 (-15分)	平均学習時間 45分 (-75分)
②ゲーム30分以内 8割以上	50.0% (-30)	37.5% (-42.5)	32.0% (-48)
③朝ごはん三点セ ット8割以上	54.0% (-26)	45.5% (-34.5)	56.0% (-24)
④チャレンジ発合格 7割以上	合格率83.4% (+3.4)	合格率75.9% (-4.1)	合格率74.5% (-5.5)
⑤期末テスト平均 (65%以上の正 答率)	5教科平均 362.2点 9教科平均 602.0点 (5教科+37.2) (9教科+17)	5教科平均 355.2点 9教科平均 618.8点 (5教科+30.2) (9教科+33.8)	5教科平均 277.1点 9教科平均 501.6点 (5教科-47.9) (9教科-83.4)

- 8月21日(木)「校内研修」2学期の取組について各学年毎対策を考える。  
・校長より指示→県費負担職員全員で5つのヒント集の実践をすること。
- 9月18日(木)「職員会議」学力テストの結果を受けての確認。  
・各教科における家庭学習課題とその生かし方について  
・優良家庭学習ノートの展示について  
・校長による家庭学習課題プリント(上位生徒向け及び発想力向上用)
- 12月16日(火)2学期の取組についての集計と3学期の取組について。
- 2月12日(木)「校内研修」5つのヒント集の実践の発表とレポート提出

<具体的な取組について>

1学期の集計結果から、家庭における学習の時間とゲームの時間が学習成績に影響していることを生徒一人一人に自覚させるとともに、各学年毎取組について再検討した。例えば、家庭学習習慣が定着していない3年生では、放課後に下校時間まで教室において自主学習時間を設定して取り組ませたり、2年生においては教科担任が個々にアプローチして課題を与えたり、1年生においては家庭学習が授業やテストなどに活かされているか否かのアンケートを実施するなどの積極的な取り組みが展開されている。12月の参観日の辺りには“優良家庭学習ノート”の展示会を開催し、多くの生徒へ参考として提示するとともに、家庭学習に積極的に取り組むための意欲付けにしたいと考えている。また、家庭におけるゲームやインターネット等に費やす時間の制限について、様々な事例を掲載した“学校だより”やPTA本部の協力のもと学年懇談会やPTA新聞などで保護者に啓発していく予定である。

【成果と課題】

成果として、全職員で取り組むことができていると実感できるとともに、少しずつではあるが、各学年の家庭学習時間が伸びてきている。

課題としては、現在は質より量を重視しているので、今後は家庭学習の内容についても検討していかなければならないと感じている。

## 提言 5 家庭学習の時間を確保すること

【学校名】 南三陸町立歌津中学校

### 【実践のねらい・概要】

提言5の「家庭学習」において、習慣化と積極的に取り組ませるために、各教科や学級においてできる学習活動を工夫し実践することで、学力向上を目指す。その手立ての一つとして、家庭学習ノート及び学習内容の統一を行った。

### 【実践】

#### ◎4月初め（新学期，入学式前）職員会議

家庭学習について、方法や学習内容、形式などについて、職員で共通理解を図る。

家庭学習用にA4版のノートを全校生徒に配布。基本、見開き左側1ページにB5版の宿題プリントを貼り、右側1ページ以上にその日の学習した内容を復習する。学習内容については検討し、各学年において統一する。

#### ◎4月中旬（新学期，入学式後）学活

家庭学習の目的や学習内容、学習方法について、生徒に説明し、ノートを配布。

#### ◎4月中旬（家庭学習開始）

積極的に取り組ませるために、担任のチェックを行い、学習内容のアドバイスや励ましを記述する。

さらに、学習時間を家庭学習カードやノートに記入させたところ、時間にも意識をして学習するようになってきた。

#### ◎4月下旬（第1回授業参観，学年懇談会にて）

家庭学習の仕方や学習内容、取組の様子について、保護者に伝える。

#### ◎各学期半ば及び学期末

家庭学習の見直しを各自行い、さらに充実させ、学力の向上を目指す。

### 【生徒の変容】

1年生においては、家庭学習の内容をパターン化させたことで、習慣化において大変効果があった。さらに内容を深めさせるために、友達の家庭学習ノートを見せ合い参考にさせ、生徒の意欲を高めていきたい。

### 【成果と課題】

各教科または学級・学年での取組が、学習内容の定着に効果を発揮し、少しずつ様々な場面で生徒にプラス（正）の変容が見られるようになってきた。今年度、授業研究において指導案の中の学習活動に「5つの提言」のどれを意識したものかを明記し、授業を行っている。今後は、年間指導計画にも提言の取り組み内容を位置付けていくとさらに計画的に学力向上に向けた指導ができるのではないかと考えられる。多くの教科での工夫ある取り組みを目指していきたい。



## 『学力向上に関する緊急会議』からの提言

# 5 つ の 提 言 ヒ ン ト 集



## 「実践事例集」との関連

提言 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

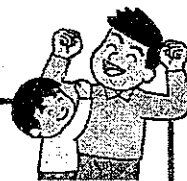
※ 全職員で子供の声に耳を傾け、落ち着いた生活をさせましょう

- 1 児童生徒理解を一層進めるために、触れあう場を多く設ける  
【白山小】【松岩小】【水梨小】
  - ① 授業の中で発言の場を確保し、表現の場を設ける  
子供の考えを確認し認める（ノート、振り返りカード、意図的指名等）
  - ② 学校生活全般で  
諸活動の中での児童生徒理解を深める（清掃活動、給食の時間、部活動等）  
「師弟同行」の姿勢で
- 2 児童生徒が落ち着いて過ごせる学級づくりを進める 【名足小】
  - ① 学習規律をしっかり守らせる  
教師は「是々非々」の姿勢で
  - ② 教師が一人一人の児童生徒にしっかりと目を向ける
  - ③ 落ち着いた雰囲気を醸成する  
整えられた掲示物、児童生徒の私物の整理、言語環境を整える等
- 3 児童生徒と触れあう時間を確保するために校務を整理する  
会議の効率化、事務の簡略化等
- 4 児童生徒理解を進める調査・アンケートを実施する  
【新城小】【水梨小】【入谷小】【面瀬中】【糸南中】【小泉中】【大谷中】
  - ① 生活アンケート、ストレスチェック、教育相談、Q-U等を実施する
  - ② 実施時期の設定を工夫する（調査ごとに適切な時期を設定する）
  - ③ 調査結果を共有し活用する
  - ④ 普段から児童生徒についての情報共有を行う（何気ない会話の中でも）



5 その他 【白山小】【松岩小】【月立小】【面瀬中】【桑南中】【志津川小】

- ① 全職員の中で、児童生徒を見つめていく体制を作る  
職員室の中で児童生徒の様子を積極的に話題にする
- ② 研修会を実施したり参加したりする  
児童生徒理解についての研修、交換授業等による授業力向上等  
外部の研修会への参加（カウンセリング、学級経営、児童理解）
- ① あいさつ運動を実施する  
校内のあいさつの活性化（きちんとしたあいさつ）  
地域の方々へあいさつ運動の実施



提言2 子供をほめること、認めること

※ 児童生徒を褒め、認める機会を増やすことで、自己肯定感・自尊感情を高めましょう

1 児童生徒主体の学級づくりを進め、仲間づくりを進める

【白山小】【中井小】【志津川小】【桑南中】【津谷中】

- ① 朝の会や帰りの会の充実を図る（児童生徒による運営等）
- ② 学級のきまりや取組、イベントなど自分たちで考えさせ運営させる  
児童生徒個々に役割や活躍の場を与える
- ③ 児童生徒のがんばりを評価する  
児童生徒の行事での活躍などの良さを紹介する

2 授業の中で達成感・自己有用感をもたせる

【小原木小】【中井小】

- ① 意図的指名による発言で考えを深めたり広げたりしながら達成感をもたせる
- ② 指導のねらいに即したつぶやきや考えを紹介する
- ③ 学習成果の振り返りで達成感を味わわせる【水梨小】  
次時の意欲付けとなるように取り組ませていく



3 児童生徒の相互理解を深める（認める場をつくる）

【小原木小】【志津川小】【津谷中】

- ① 朝の会や帰りの会の時間に互いの良いところを確認する時間を設定する
- ② 児童生徒の個人目標を定期的にペアやグループで話し合っ確認する
- ③ 入賞記録などを紹介するコーナーを作る
- ④ 努力した点やよく出来た点を児童生徒が互いに認めたり褒めたりする

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

※ 学習のまとめを意識し、1時間ごとの授業をより充実させましょう

1 児童生徒の実態を的確に把握する

【九条小】【白山小】【大谷小】【気仙沼中】【大島中】【小原木中】

- ① ねらいを達成した児童生徒の姿を明確にする
- ② 適用問題で授業の理解度を確認するとともに、小テスト等で定着を図る

## 2 授業づくりの工夫する

**【気仙沼小】【九条小】【白山小】【唐桑小】【大谷小】【伊里前小】【気仙沼中】  
【大島中】【小原木中】【馬籠小】**

- ① 授業のねらいを板書等で示し、教師と児童生徒が共有することにより、ねらいと見通しをもてる授業展開を工夫する
- ② 児童生徒の驚きや発見を引き出し、課題解決への意欲を高める
- ③ 学習のまとめと振り返りの時間を必ず確保する
- ④ 授業感想は「学習したキーワードを使って」「4行で」等の条件を決める  
発達段階によって条件を変えるなど、工夫する
- ⑤ 教師の発問や指示、説明をより分かりやすく
- ⑥ 単元の学習計画を作成し、単元で押さえる基礎的な内容を児童生徒に一覧で示す
- ⑦ 学習のまとめを重視して授業の進め方を工夫する

### 提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

※ 「書く」活動を充実させ、思考力や表現力を育てましょう

#### 1 授業計画をしっかり立てて考えを書く時間を確保する

**【鹿折小】【松岩小】【白山小】【面瀬小】【唐桑小】【津谷小】【馬籠小】  
【名足小】【新月中】【唐桑中】【志津川中】**

- ① 学ぶべきこと、身に付けさせることを精選し、書く活動を確保して学習過程に位置付ける
- ② 教師と同じ速さで黒板の文字をノートに書くよう練習をする
- ③ 書く際には「正確に」「定規を使って」「色別に」等を意識させる

#### 2 「板書」のあり方を工夫する **【志津川中】**

- ① 1単位時間の板書を構造化する
- ② 児童生徒がノートにどのように書くかを意識した板書を心掛ける
- ③ 児童生徒の「気づき」や「考え」を書けるような板書を心掛ける

#### 3 ノートづくりの指導を工夫する

**【鹿折小】【唐桑小】【津谷小】【馬籠小】【名足小】【新月中】【唐桑中】  
【志津川中】**

- ① 良いノートを紹介する（児童生徒の「考え」が見えるもの）
- ② ノートに書いた考えを授業の中で児童生徒同士で交流させて活用する
- ③ 繰り返し見たり、書き加えたり、学習の足跡が分かるように書かせる
- ④ 課題・まとめ・授業感想をしっかり書かせる
- ⑤ 友だちの考えを聞いてメモさせる
- ⑥ 校内研修などで「ノート指導」の在り方について学び合う



4 「書くこと」のスキルアップを目指す

【松岩小】【面瀬小】【唐桑小】【津谷小】【新月中】【唐桑中】【志津川中】  
【階上小】

- ① メモを取る習慣の形成を図る  
まずはキーワードや話形を活用して、慣れたら自分で工夫させる
- ② 根拠を明確にして自分の考えを書くことを指導する
- ③ 社会のできごとや興味を抱いたことについての感想を書かせる  
授業だけでなく、短学活などの利用も考える

提言5 家庭学習の時間を確保すること

※ 被災地の子どもたちが取り組める家庭学習の進め方を工夫しましょう

1 家庭学習の内容や進め方を工夫する

【気仙沼小】【階上小】【大島小】【小泉小】【戸倉小】【鹿折中】【松岩中】  
【階上中】【歌津中】

- ① 家庭学習の内容、課題の与え方、学習習慣と生活習慣を見直して、継続的な取組に向けた方策を工夫する
- ② 長期、中期、短期の目標をもたせる等、子ども自身が家庭学習の有用性に気付く取組をする（特に中学生は進路実現と関連付ける）
- ③ 「家庭学習の手引き」「家庭学習カード」などの活用を図り、学習時間の目安や課題例、学習の内容や取組など再確認する
- ④ 課題を出してチェックし、出来ていないところをフォローする
- ⑤ 家庭学習ノートに励ましの言葉、学習内容の指導、その生徒にさせたい課題の提示など教師の「言葉」を入れる
- ⑥ 放課後や長期休業中に、学校で自主学習が出来る場や時間を提供して、児童生徒の家庭学習を側面から支える

2 家庭学習の大切さを保護者へ伝え、家庭の協力を得る【戸倉小】【階上中】

- ① 家庭学習の大切さを、学校・学級通信や研究だよりで取り上げ、全校保護者に配付する
- ② 子どもが学習する時間に周囲の大人も協力する体制を作ってもらおう  
その時間だけテレビを止めてもらう、一緒に勉強するなど
- ③ 家庭でも児童生徒の家庭学習の取組について把握してもらおう  
保護者からも褒めてもらう
- ④ 全員が毎日取り組むのが当たり前となるように家庭との連携を深める



実践事例の実践の場面

時間帯	活動	実践事例【学校名(ページ)】				
		児童生徒の活動・教師の働きかけ				
朝・始業前	登校時	白山小02		松岩小03		
	朝の会・打合せ	中井小13	唐桑中33	新城小05	月立小06	
	朝会・全校集会	中井小13				
授業中	授業計画	月立小06	気仙沼小17	大谷小20		
	導入	水梨小04	気仙沼中22	小原木中24	鹿折小25	白山小12
		大島中23	気仙沼小17			
	展開	面瀬小27	鹿折小25	水梨小04	小原木小14	松岩小26
気仙沼小17		中井小13	大谷小20	津谷小29	馬籠小30	
名足小31		新月中32	唐桑小19			
終結 (振り返り)	水梨小04	白山小12	気仙沼小17	九条小18	大谷小20	
	伊里前小21	気仙沼中22	大島中23	小原木中24	鹿折小25	
	志津川中34	唐桑小28				
給食・休憩時	志津川小15					
清掃時の会	新城小05	中井小13	津谷中16			
放課後	課外活動	気仙沼小35	小泉小38	松岩中41	階上中42	中井小13
	職員会議・校内研修会等	入谷小20	条南中09	小泉中10	大谷中11	志津川中34
		戸倉小39	大島小37	階上中42	歌津中43	
家庭で	気仙沼小35	階上小36	大島小37	小泉小38	戸倉小39	
	鹿折中40	松岩中41	階上中42	歌津中43		
お便り等	中井小13					
児童生徒理解・分析	白山小12	入谷小07	面瀬中08	条南中09	小泉中10	
	大谷中11					
年間を通じての活動	【大島中：年間指導計画】【馬籠小：授業評価表】 【名足小：授業の約束】【新月中：サークルタイム】【唐桑中：集団読書活動】					

## 『5つの提言』実践事例集』の活用について

平成26年11月26日実施「南三陸教育事務所管内研究主任研修会」研究協議より

### ※ 校内研修での活用について

#### ○ 職員への周知を図る。

～ダイジェスト版をつくり、全員へ配布する。

～ダウンロードデータを作成する。

～インデックスを付けることによって、必要な箇所を参照できるようにする。

～実践の流れをフローチャート化し、一目で分かるようにする。

#### ○ 校内研修の一環として、「実践事例集」から学校にとって必要なことを読み取るグループワークを行う。

#### ○ 研究主任が事例集の内容を把握し、他の職員へアドバイスできるようにする。

#### ○ 他校の実践を紹介してもらった際のガイドマップ的な使い方を（興味のある実践を行っている学校の先生を講師として招く。授業や活動の様子を参観させていただく）。

### ※ 中学校区ごとに、小・中互いの実践を必ず確認し合い、小中連携に役立てる。

#### ○ 生活の規範や学習スタイルを小中で確認し連携する。

### ※ 初任研の一般研修や授業研修の資料とする。

### ※ 実践集を毎年発行し、成果を累積する。

## 〈 索 引 〉

- |                 |                   |                |                               |
|-----------------|-------------------|----------------|-------------------------------|
| 【あ行】            |                   | 【た行】           |                               |
| 5つの提言 (ヒント集)    | …23, 39           | 縦割班によるあいさつ運動   | …03                           |
|                 |                   | 適用問題           | …18, 19<br>21, 24             |
| 【か行】            |                   | チャレンジタイム       | …42                           |
| 学習ガイドライン        | …42               | 読書ノート          | …33                           |
| 学習環境            | …20               |                |                               |
| 学習指導過程基本型       | …17               | 【な行】           |                               |
| 学習実態調査          | …10               | ねらいに到達した児童生徒   | …22                           |
| 家庭学習            | …36, 39<br>40, 43 | ひみつの先生         | …15                           |
| 家庭学習の手引き        | …37, 41           | 年間指導計画         | …23                           |
| 家庭学習振り返りカード     | …38               | ノート指導          | …25, 28, 29, 30<br>31, 32, 34 |
| 漢字検定            | …36               |                |                               |
| 学校生活アンケート       | …07, 09           | 【は行】           |                               |
| 学習プリント (ワークシート) | …27, 30, 32       | はなまるカード        | …35                           |
| Q-U調査           | …08, 09, 11       | ハートキャッチあいさつロード | …02                           |
| きんYOUタイム        | …05               | 発表朝会           | …13                           |
| コンプリメントシャワー     | …16               | 板書             | …34,                          |
|                 |                   | 吹き出し型ワークシート    | …04                           |
| 【さ行】            |                   | 複式学級の指導体制      | …06                           |
| サークルタイム         | …32               | 付箋紙            | …27, 29                       |
| 自学              | …38               | 振り返り           | …12, 23, 27                   |
| 自主学習ノート         | …41               | ホワイトボード        | …27                           |
| しまっこ頑張りカード      | …37               | 放課後学習 (支援)     | …35, 39                       |
| ジャンプ            | …40               |                |                               |
| 授業感想            | …21, 34           | 【ま行】           |                               |
| 授業評価表           | …30               | めあての設定         | …12, 19, 23                   |
| 授業の約束           | …31               |                |                               |
| 授業七つ道具          | …31               | 【わ行】           |                               |
| 授業を共有化する        | …14               | ワークショップ        | …34                           |
| 集団読書活動          | …33               |                |                               |
| スキルアップ          | …26, 32<br>32, 34 |                |                               |
| ステップノート         | …40               |                |                               |